農学生命情報科学特論I

ICT や IoT 等の先端技術を活用し、効率よく高品質生産を可能にするスマート農業への取り組みは世界的に進められています。その基礎を支えている技術の一つがプログラミング言語。なかでも、習得しやすくかつ応用範囲の広い Python がとくに注目されています。本科目では、農学や分子生物学などの分野で利用される Python の最新事例を紹介しながら、Python の基礎文法の講義を行います。

孫 建強 https://aabbdd.jp/ 農研機構・農業情報研究センター

03 13:15-16:30

Python 基礎

第 1 回目の授業では、プログラミング言語の基本であるデータ構造とアルゴリズムを 簡単に紹介してから、Python の基本構文を紹介する。Python のスカラー、リスト、 ディクショナリ、条件構文と繰り返し構文を取り上げる。

10 13:15-16:30

テキストデータ処理

バイオインフォマティックスの分野において、塩基配列やアミノ酸配列などの文字列か らなるデータを扱うことが多い。第 2 回目の授業では、Python を利用した文字列処 理を紹介し、FASTA や GFF などのファイルから情報を抽出する方法を取り上げる。

17 13:15–16:30

データ分析

第 3 回目の授業では、Python ライブラリー(NumPy や Pandas)を利用して、 CSV ファイルの処理などのデータ分析やデータ可視化を中心に取り上げる。

24 _{13:15–16:30}

スマート農業

Python のライブラリー (PyTorch 等) を利用して、深層学習による物体分類や物体 検出モデルを実装する例を示す。

農学生命情報科学特論 I



- () 機械学習
- 画像解析・物体認識
- 物体認識モデル実装

機械学習

教師あり学習

教師あり学習は、訓練データとして特徴量と正解ラベルがペアとして与えられるときに行う学習方法である。機械が特徴量と正解ラベルの関係性を探索し、最適な関数で両者を結びつける。教師あり学習は、分類問題および回帰問題などに応用される。

- ニューラルネットワーク
- ロジスティック回帰
- ・ サポートベクトルマシン(SVM)
- 決定木
- ランダムフォレスト
- k 近傍法
- 線形回帰
- スパース回帰

教師なし学習

教師なし学習は、訓練データとして特徴量のみが与えられるときに行う学習方法である。機械が大量なデータ (特徴量)を解釈し、データに隠されたパターンを抽出して、グループ分けしたりする。教師なし学習は、クラスタリングや次元削減・特徴抽出、外れ値検出などに適用される。

- 階層型クラスタリング
- k-means
- 自己組織化モデル(SOM)
- ・ トピックモデル (pLSI, LDA)
- · 主成分分析(PCA)
- · 線形判別分析(LDA)

強化学習

最適化問題

回帰問題

施肥量を利用して収穫量を予測するにはどうすればいいのか?

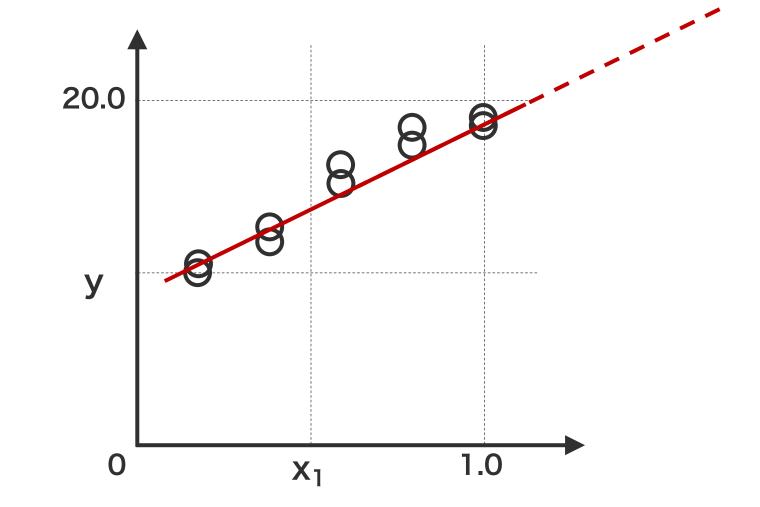
実験区画	区画 1	区画 2	区画 3	区画 4	区画 5
施肥量	0.2	0.4	0.6	8.0	1.0
収穫量	10.2	12.4	16.1	17.8	18.2
	10.1	11.9	17.2	18.1	18.0

回帰問題

施肥量を利用して収穫量を予測するにはどうすればいいのか?

収穫量	施肥料
10.2	0.2
10.1	0.2
12.4	0.4
11.9	0.4
16.1	0.6
17.2	0.6
17.8	8.0
18.1	8.0
18.2	1.0
18.0	1.0



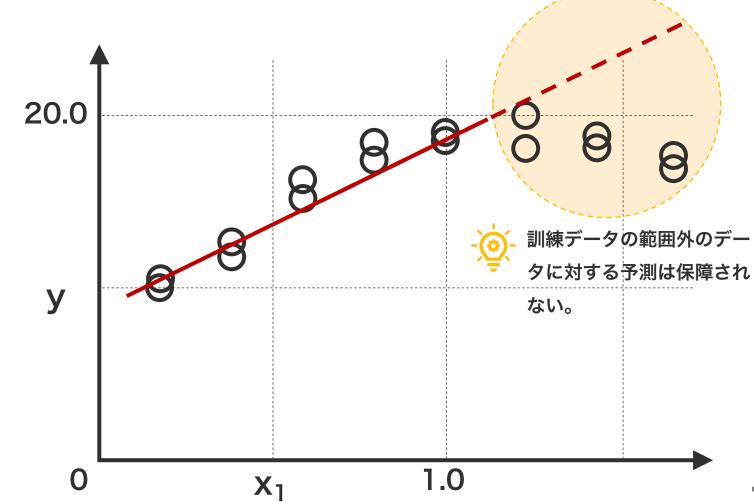


回帰問題

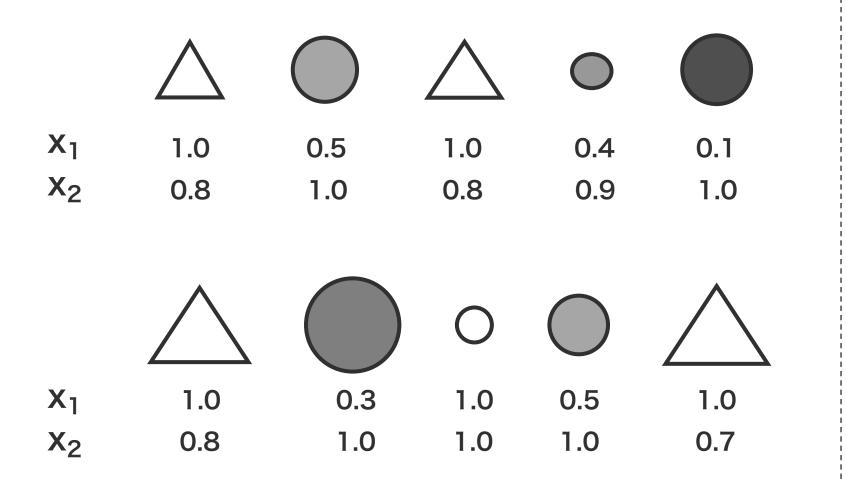
施肥量を利用して収穫量を予測するにはどうすればいいのか?

収穫量	施肥料
10.2	0.2
10.1	0.2
12.4	0.4
11.9	0.4
16.1	0.6
17.2	0.6
17.8	0.8
18.1	0.8
18.2	1.0
18.0	1.0





円形と三角形を分類したい場合、どの特徴に着目すればいいのか?



7

色

色に着目すると、三角形は白が多く、円形は黒い場合が多い。ここで、白を 1、黒を 0 とする色の指標を考える。



№ 外接円との面積比

分類したい形とその外接円の面積 の比に着目すると、三角形の場合 は 1 よりも小さく、円形の場合は ほぼ 1 になる。

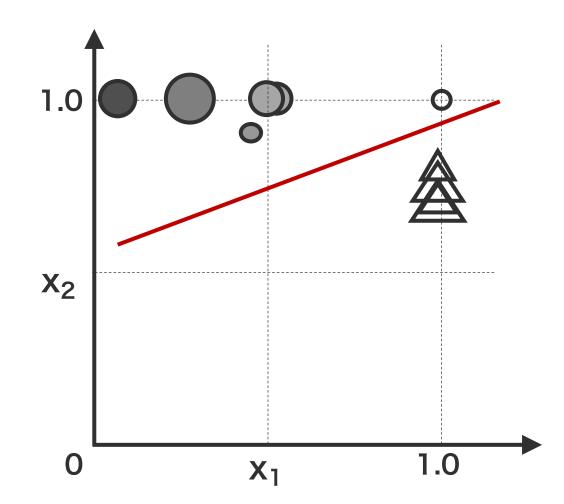




円形と三角形を分類したい場合、どの特徴に着目すればいいのか?

ラベル	X_1	X ₂
1	1.0	0.8
0	0.7	1.0
1	1.0	0.8
0	0.8	0.9
0	0.9	1.0
1	1.0	0.8
0	0.8	1.0
0	1.0	1.0
0	0.7	1.0
1	1.0	0.7

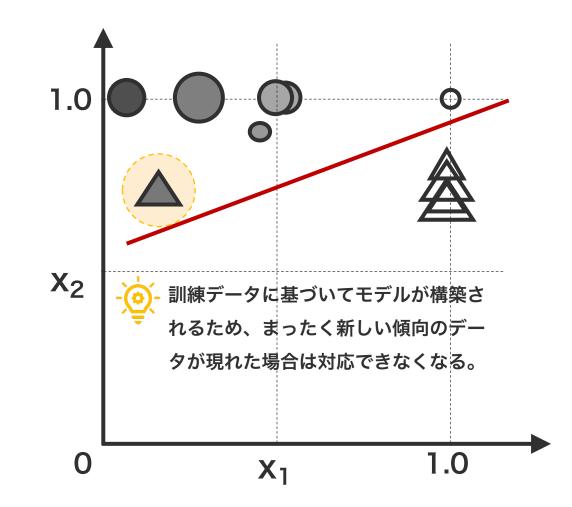




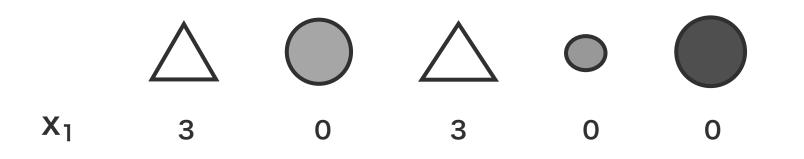
円形と三角形を分類したい場合、どの特徴に着目すればいいのか?

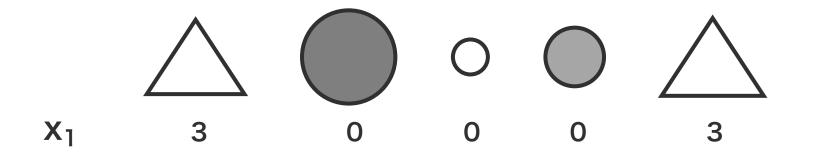
ラベル	X_1	X ₂
1	1.0	0.8
0	0.7	1.0
1	1.0	0.8
0	0.8	0.9
0	0.9	1.0
1	1.0	0.8
0	0.8	1.0
0	1.0	1.0
0	0.7	1.0
1	1.0	0.7





円形と三角形を分類したい場合、どの特徴に着目すればいいのか?





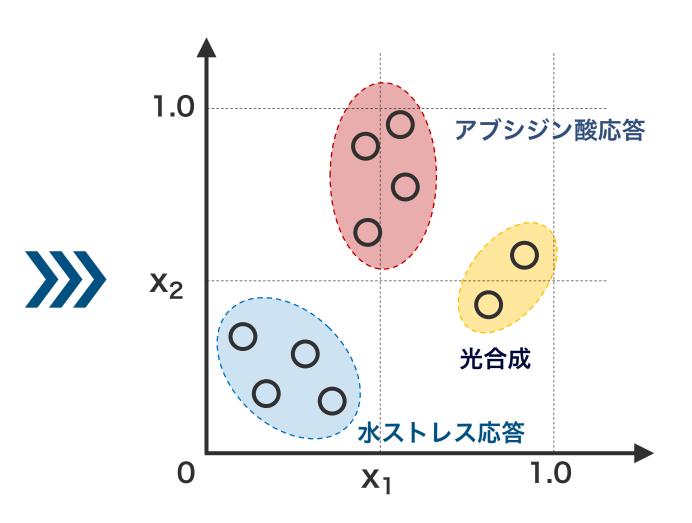
風 角の数

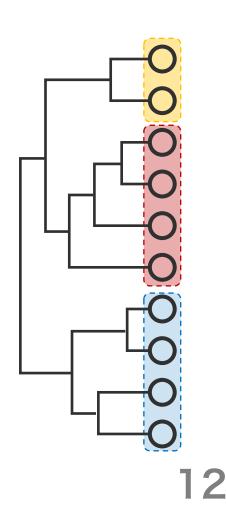
円形の角は 0 個で、三角形の角の数は 3 個である。そのため、角の数を特徴量をして使えば、この 1 つの特徴量だけで円形と三角形を分けられるようになる。

クラスタリング

10 個の遺伝子に対して、乾燥ストレス処理前 X_1 と処理後 X_2 の発現量を測定した。遺伝子間の関係を調べるにはどうすればいいのか?

X_2
0.38
0.57
0.21
0.98
0.88
0.25
0.36
0.61
0.73
0.46

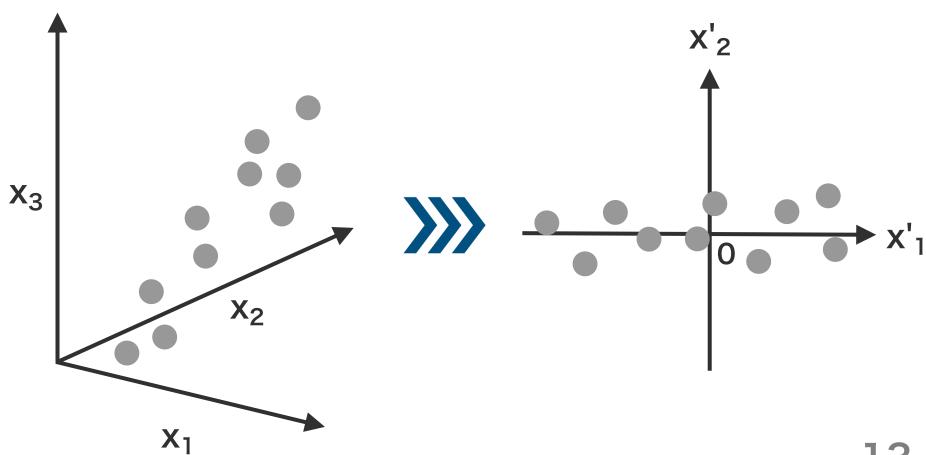




次元削減・特徴量抽出

多次元の情報を二次元の情報に落として図示したい。

X_1	X ₂	Х3
0.12	0.38	0.54
0.92	0.57	0.12
0.39	0.21	0.42
0.52	0.98	0.85
0.49	0.88	0.24
0.26	0.25	0.53
0.34	0.36	0.87
0.49	0.61	0.42
0.53	0.73	0.13
0.82	0.46	0.56



農学生命情報科学特論 I



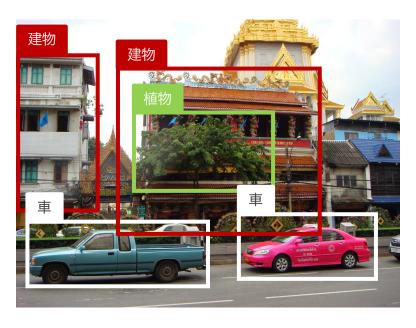
- () 機械学習
- 画像解析・物体認識
- () 物体認識モデル実装

画像解析

物体分類



物体検出



セグメンテーション



- 簡単
- アルゴリズムが簡単で実装しやすい。
- モデルも簡単で少ない時間で訓練できる。
- 応用範囲が狭い。

- アルゴリズムが複雑である。
- モデルも複雑で訓練コストがかかる。
- 応用範囲が広い。

複雑

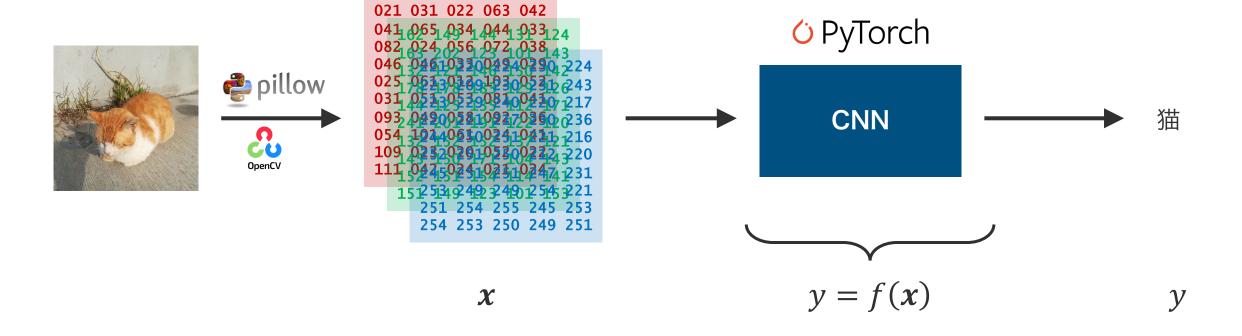
物体分類

入力



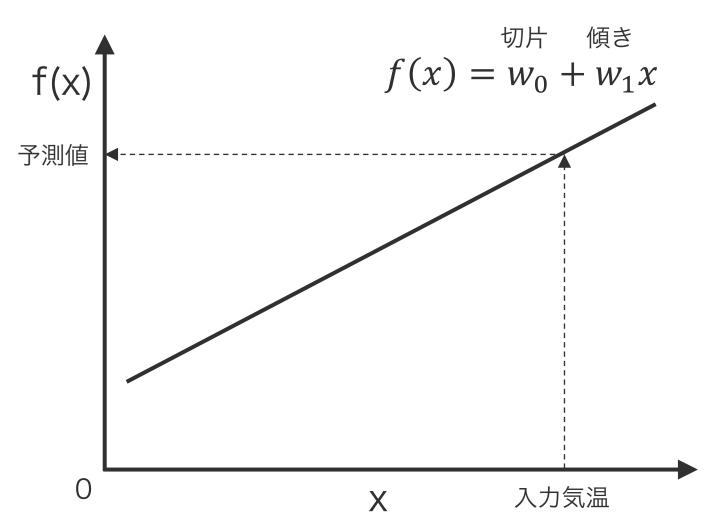
物体分類

入力



$$f(x) = w_0 + w_1 x$$

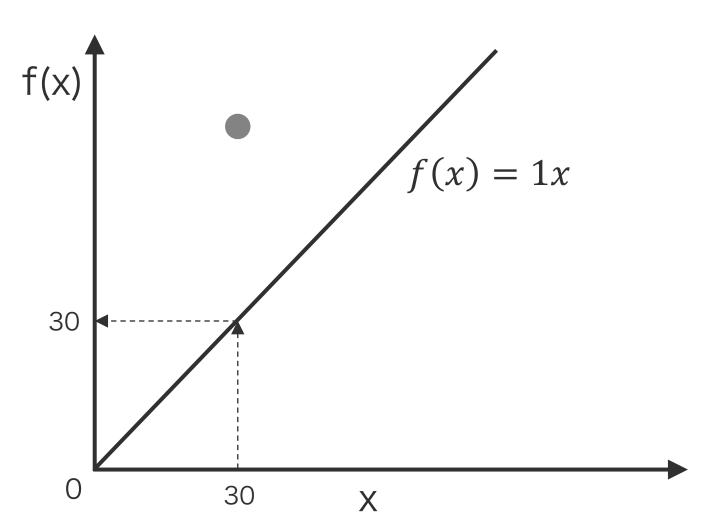
▲
生産量 気温



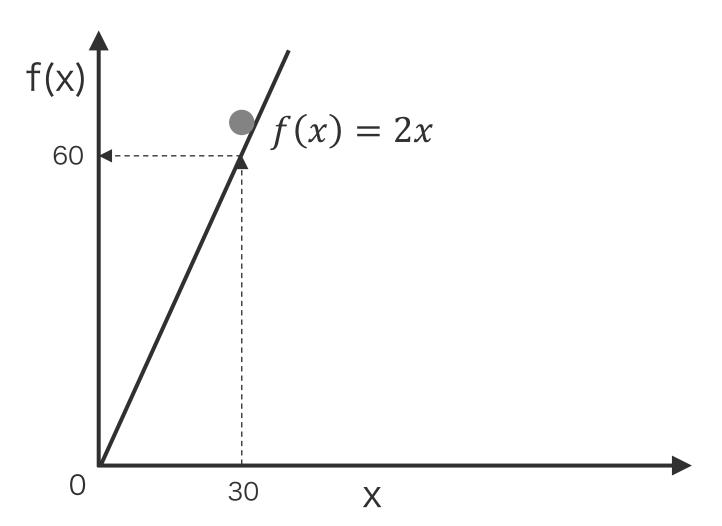
$$f(x) = w_0 + w_1 x$$

▲
生産量 気温

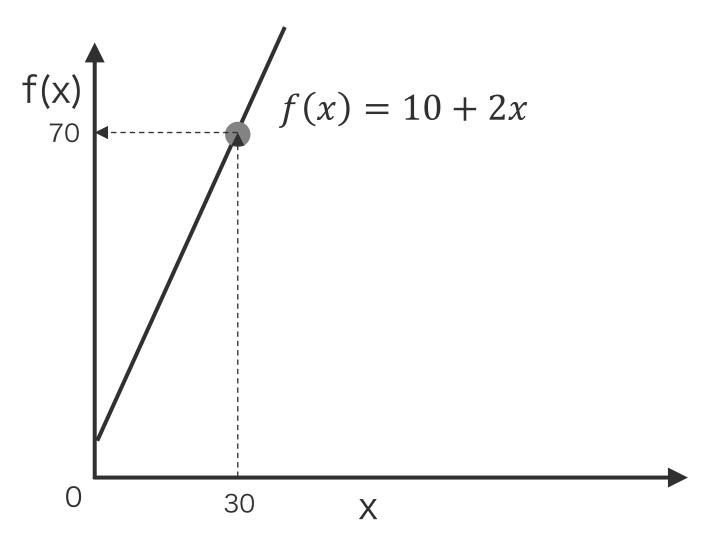
生産量	気温	w ₀	w ₁	予測値
70	30	0	1	30



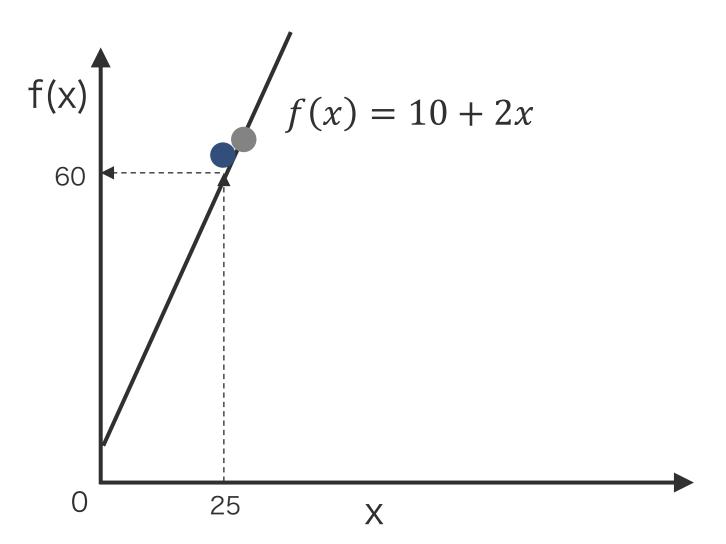
生産量	気温	W ₀	W ₁	予測値
70	30	0	1	30
		0	2	60



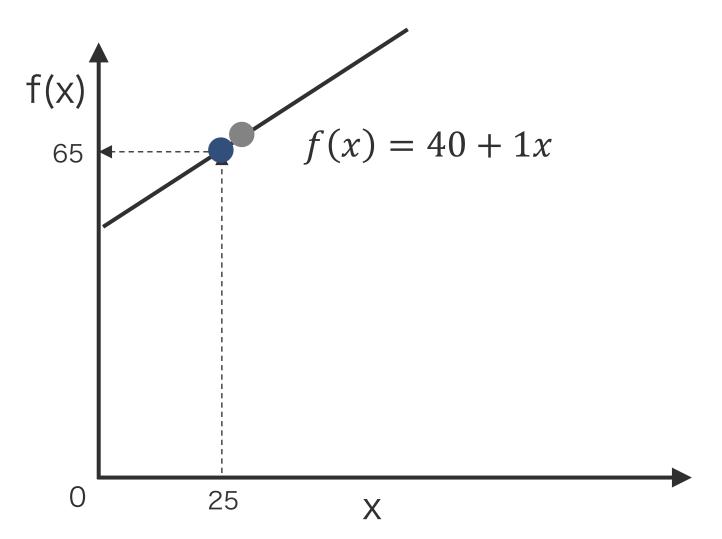
生産量	気温	w ₀	w ₁	予測値
70	30	0	1	30
		0	2	60
		10	2	70



生産量	気温	w ₀	W ₁	予測値
70	30	0	1	30
		0	2	60
		10	2	70
65	25	10	2	60



生産量	気温	w ₀	\mathbf{w}_1	予測値
70	30	0	1	30
		0	2	60
		10	2	70
65	25	10	2	60
		40	1	65

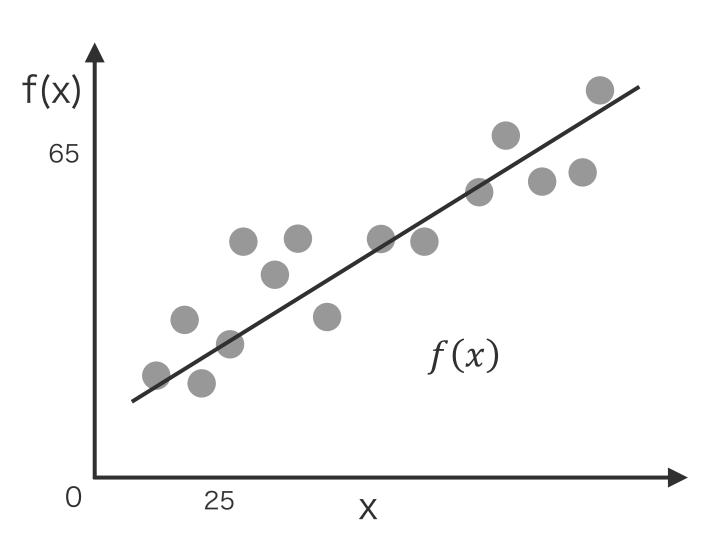


ある作物の生産量が気温のみに影響されると仮 定する。この仮定のもとで、気温を使って生産 量を予測できる。例えば、

$$f(x) = w_0 + w_1 x$$

▲
生産量 気温

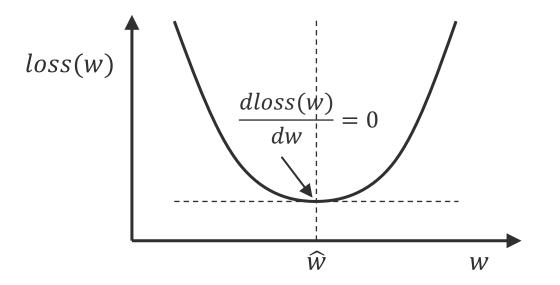
データがたくさんあったら・・・f(x) の係数を どのようにして決定すればよいのか。

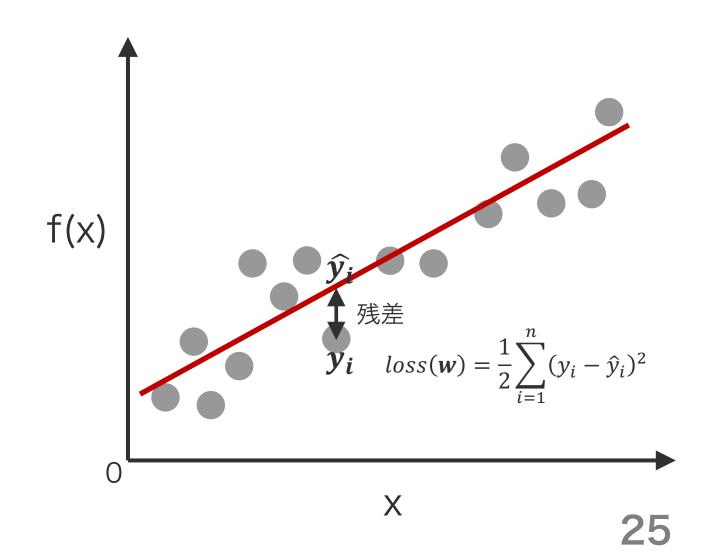


勾配降下法

最適な重み \mathbf{w} を見つけるには、loss(\mathbf{w})を最小にする \mathbf{w} を見つければよい。

$$loss(w) = \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{n} (y_i - x_i w)^2$$





多变量関数

説明変数が多くなると、求める w も多くなる。 そのため、loss(w) 関数の形は複雑になり、最 小値を求めるのがますます困難になる。

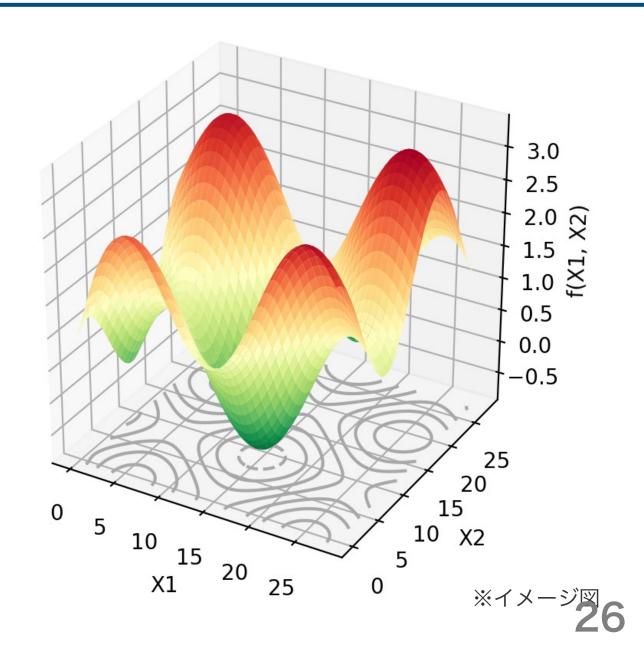
$$y = w_0 + w_1 x_1 + w_2 x_2$$
 \blacktriangle
乾燥重量

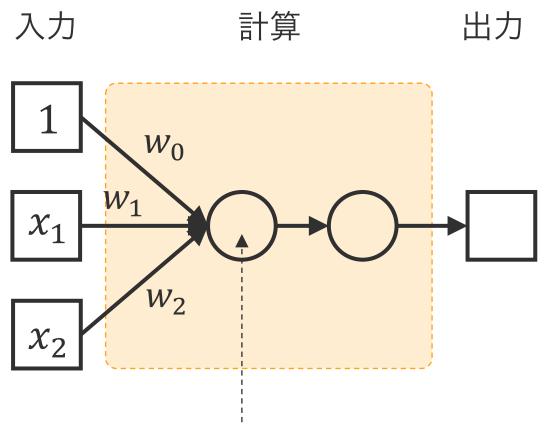
 k

施肥量

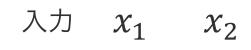
気温

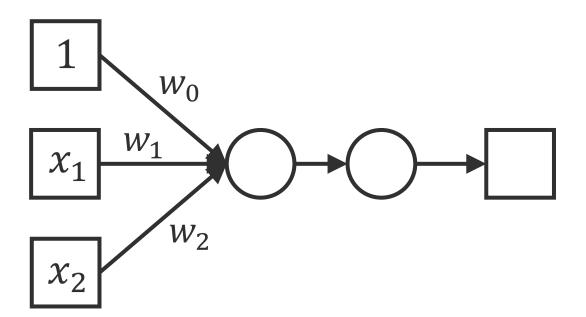
$$loss(w) = \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{n} (y_i - x_i w)^2$$





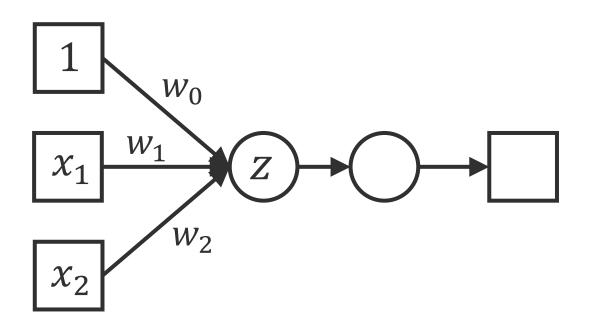
回帰分析と同じ計算を行なっている。 $f(x) = w_0 + w_1 x_1 + w_2 x_2$







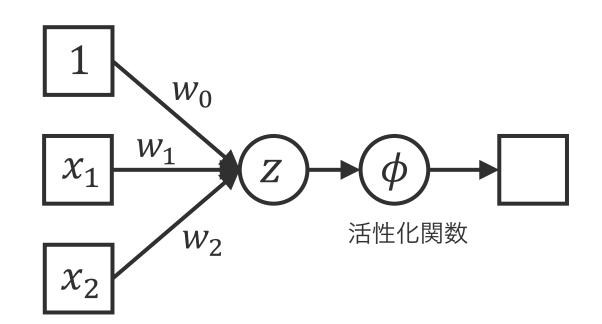
処理
$$z = w_0 + w_1 x_1 + w_2 x_2$$





処理
$$z = w_0 + w_1 x_1 + w_2 x_2$$

処理
$$\phi(z) = z$$

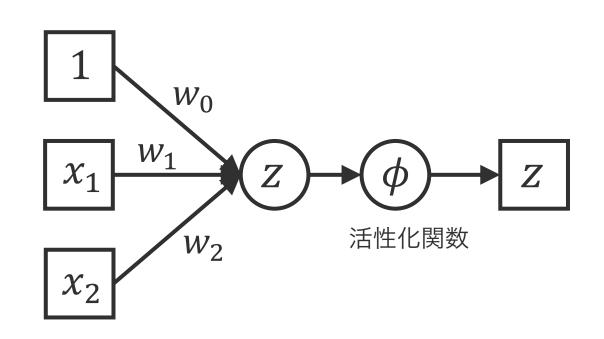


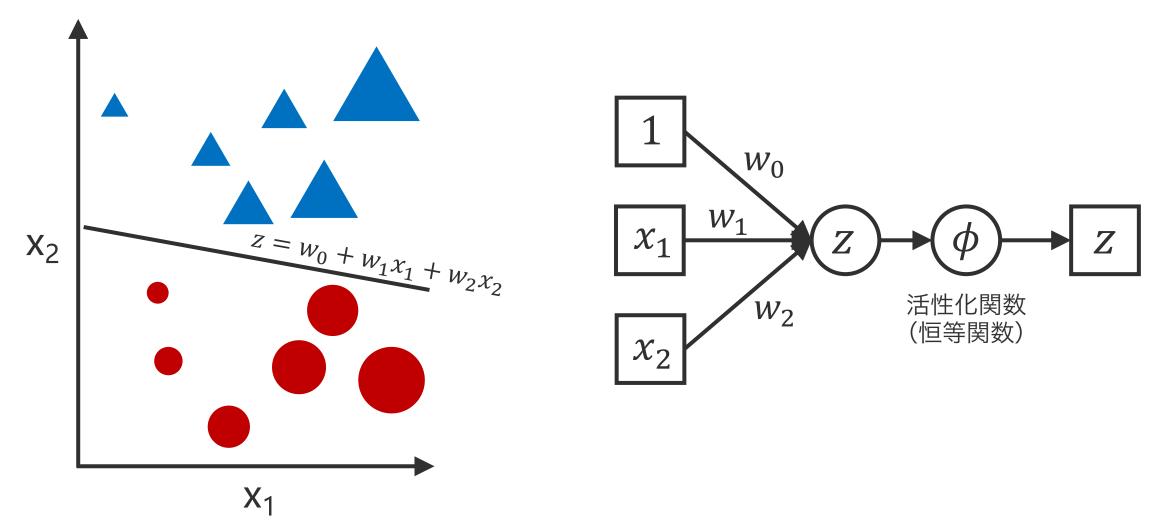
入力
$$x_1$$
 x_2

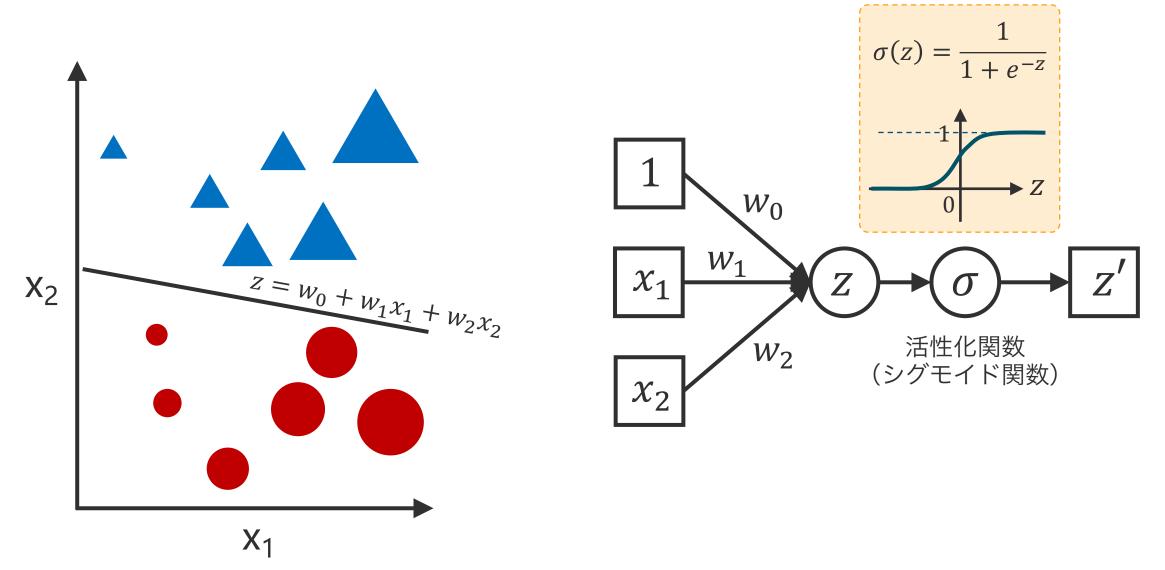
処理
$$z = w_0 + w_1 x_1 + w_2 x_2$$

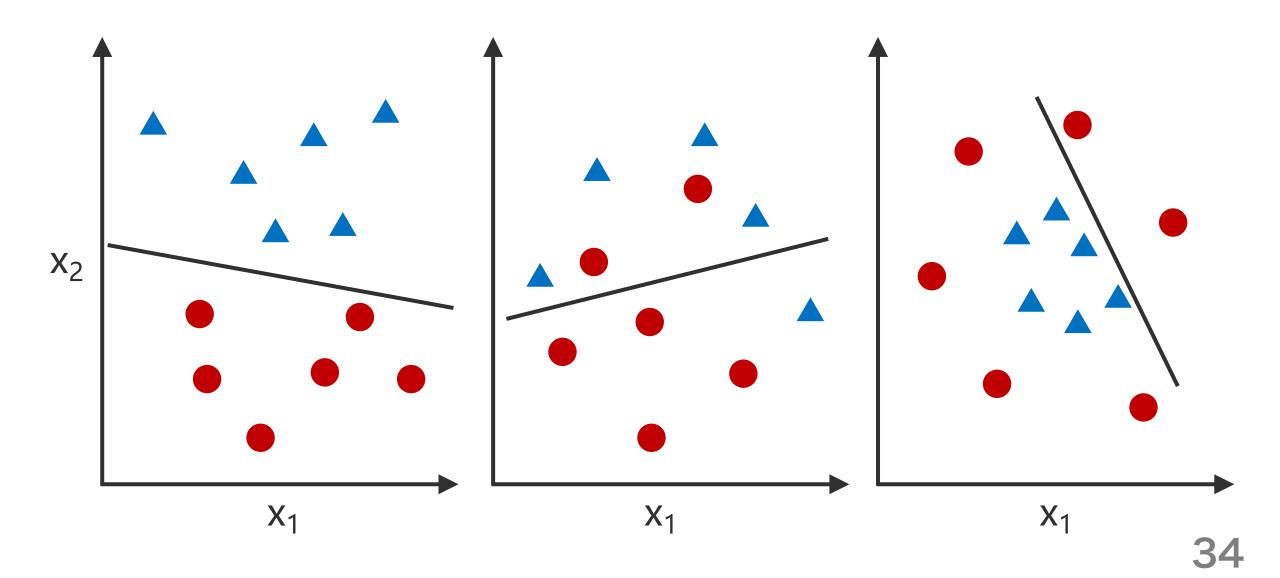
処理
$$\phi(z) = z$$

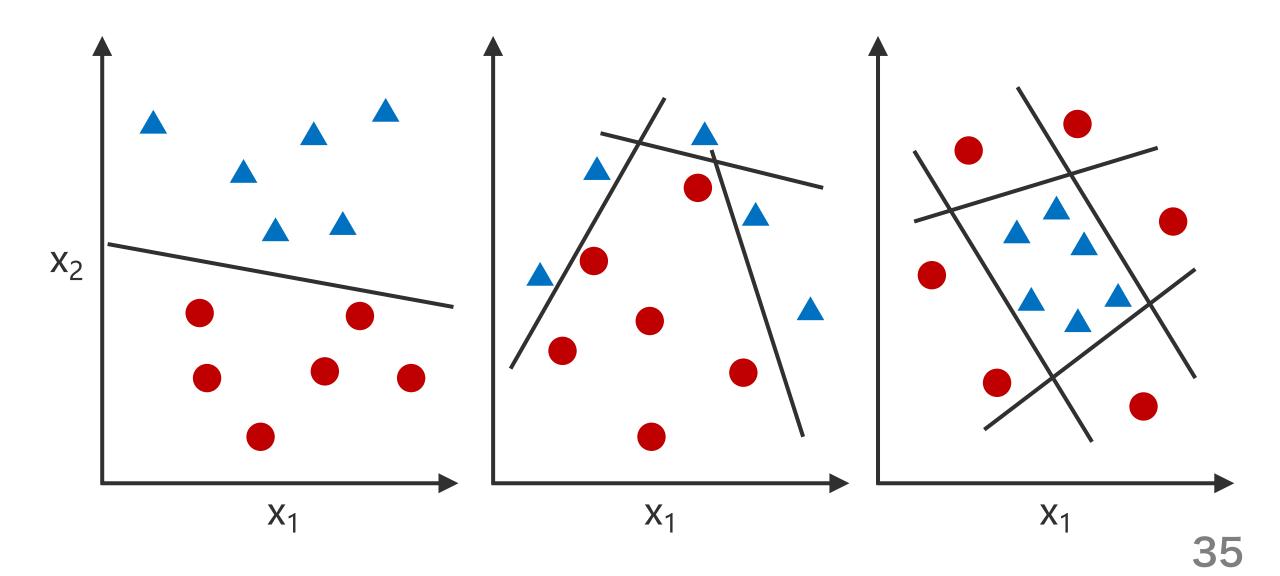
出力 **Z**

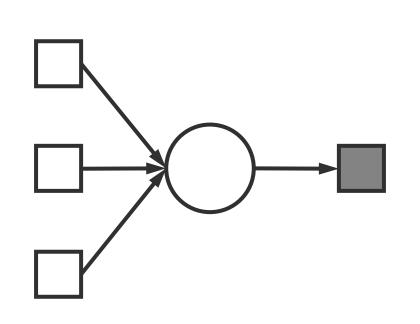




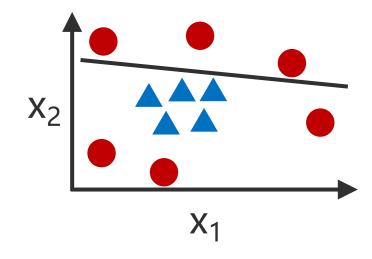


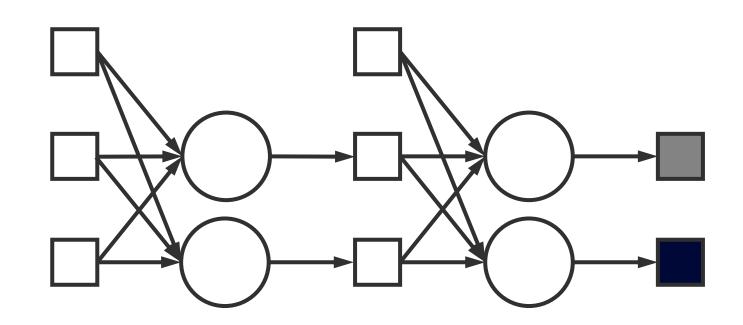




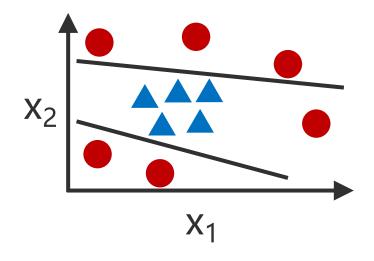


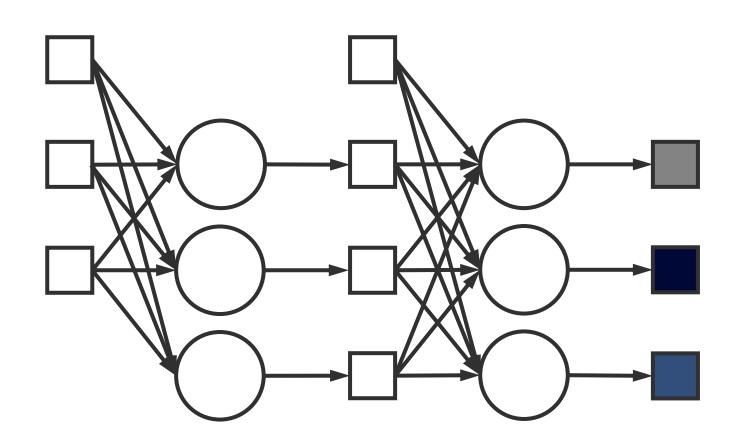
※ 図はイメージである。



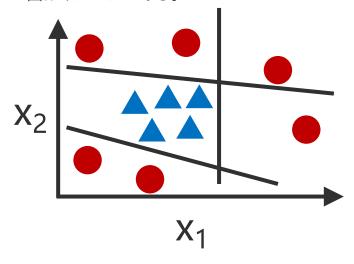


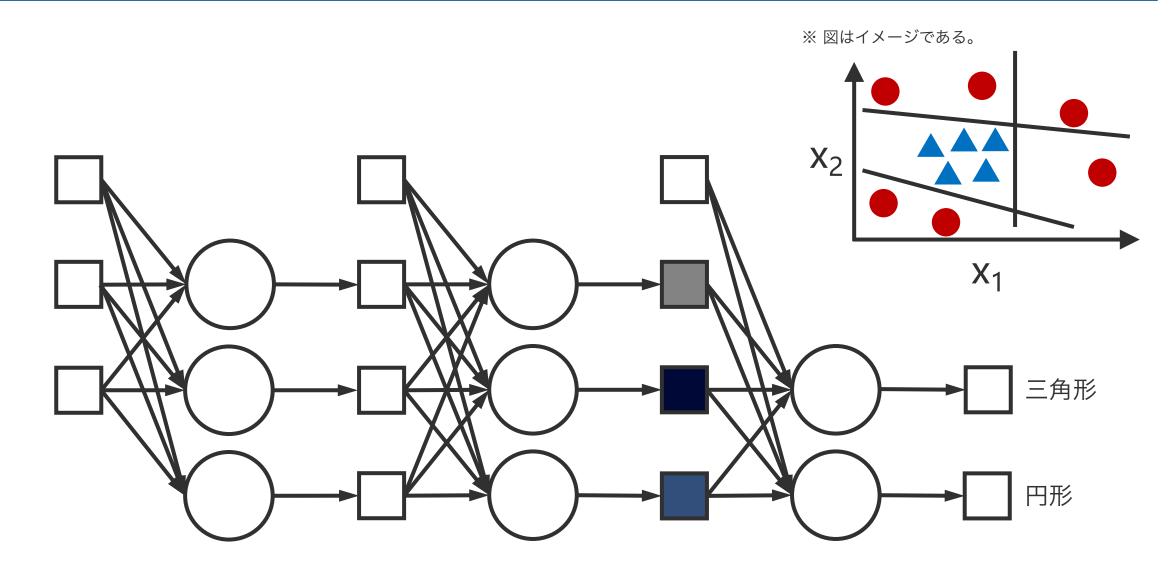
※ 図はイメージである。

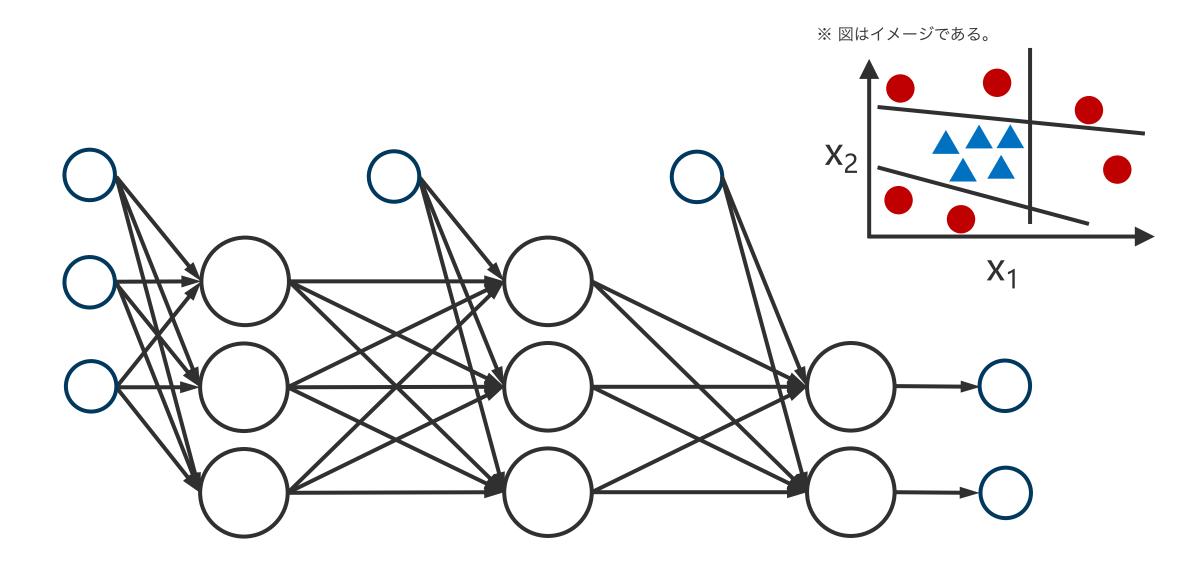


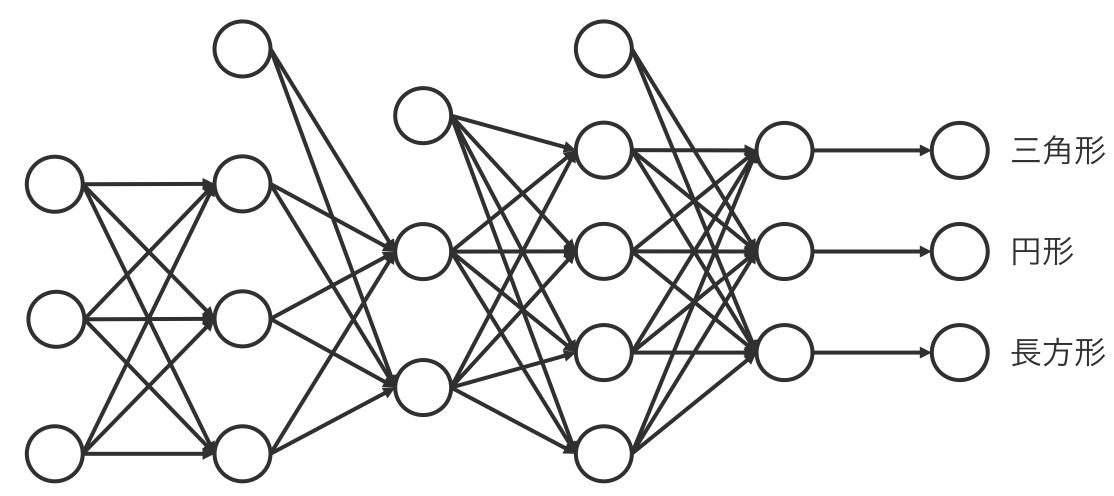


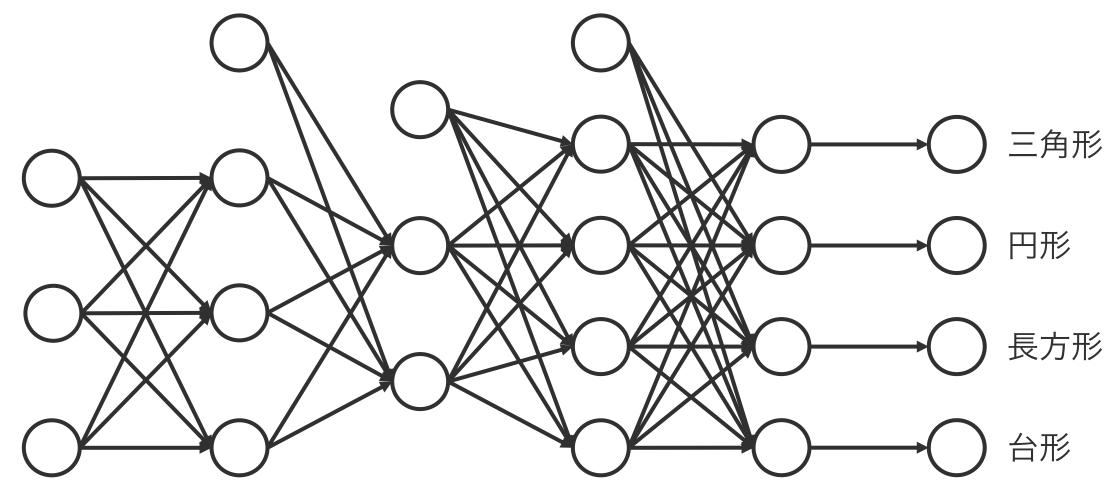
※ 図はイメージである。



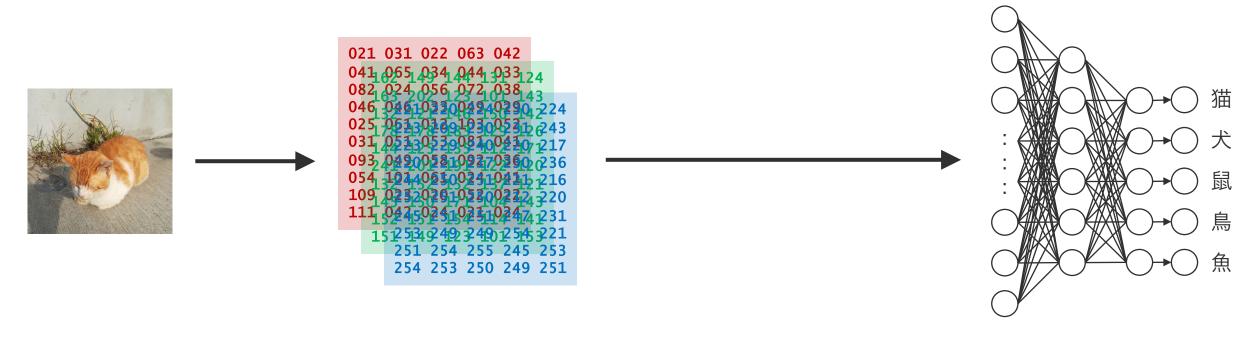








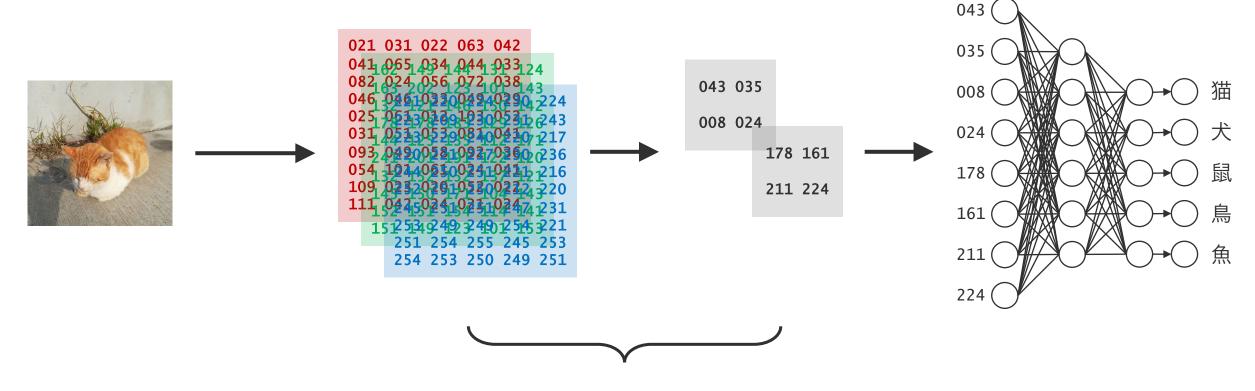
画像解析 (物体分類)



画像の RGB 輝度をそのままニューラルネットワークに入力すると・・・

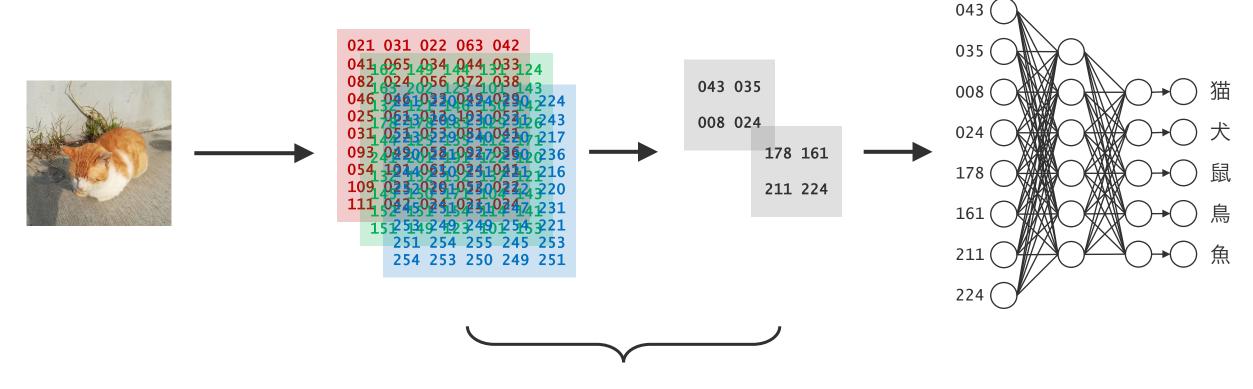
- 画像サイズとが大きい (225 x 225 x 3 = 151,875)
- 画像にノイズが含まれている
- オブジェクトがズレると、行列の各位置の値が大きくズレる

画像解析 (物体分類)



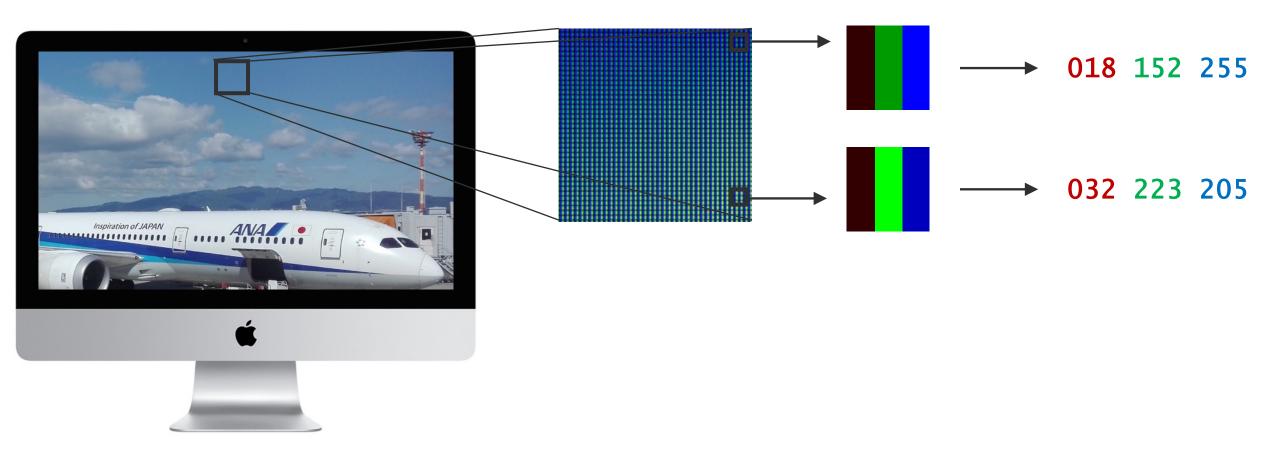
画像から重要な特徴だけを取り出して、その特徴量のみ をニューラルネットワークに代入して分類を行う。

画像解析(物体分類)

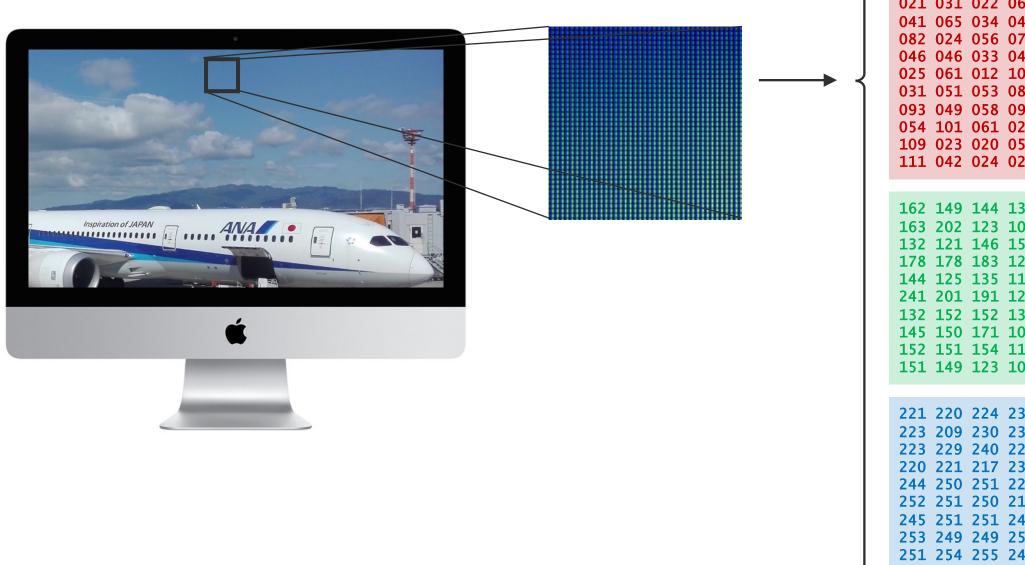


画像から重要な特徴だけを取り出して、その特徴量のみ をニューラルネットワークに代入して分類を行う。

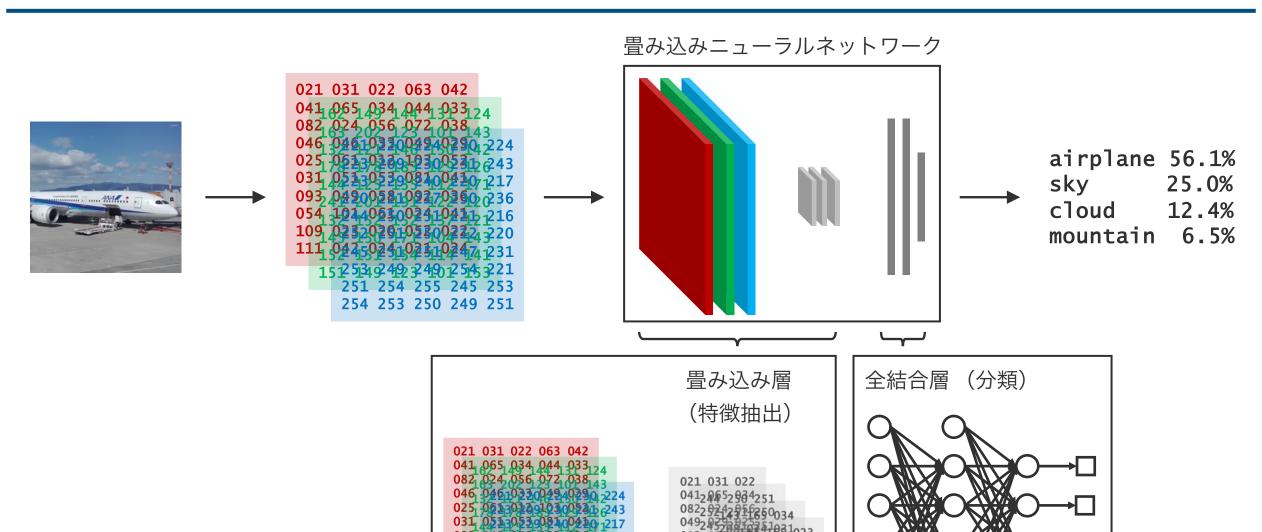
物体分類



物体分類



畳み込みニューラルネットワーク



254 253 250 249 251

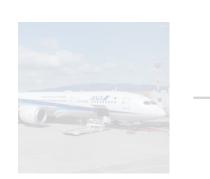
019₂1118₁03²2₂₂₁ 115 198 108

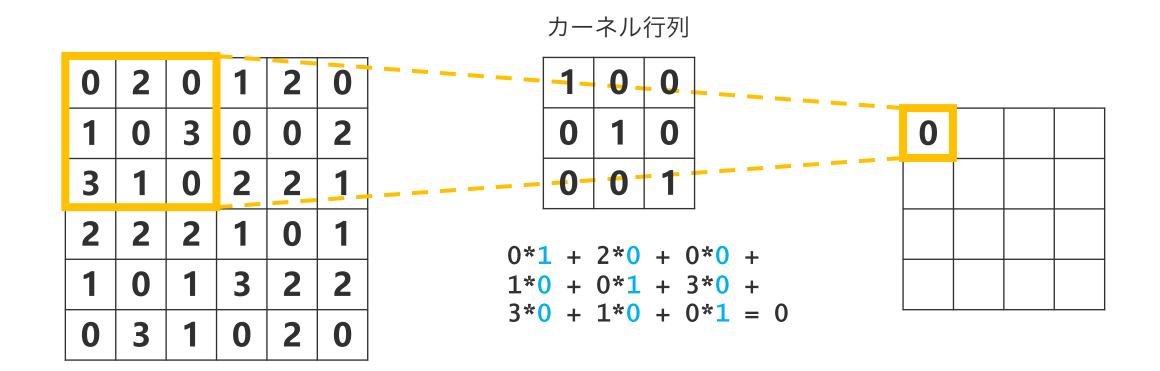
モノクロ画像

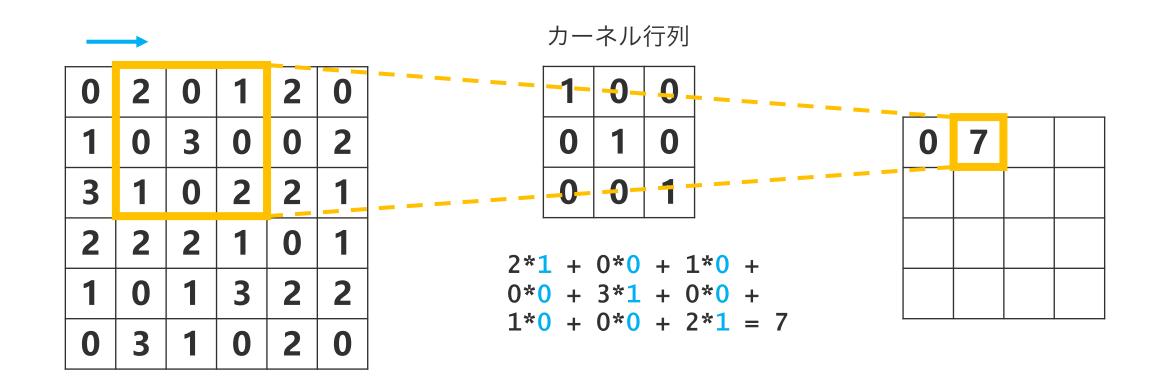


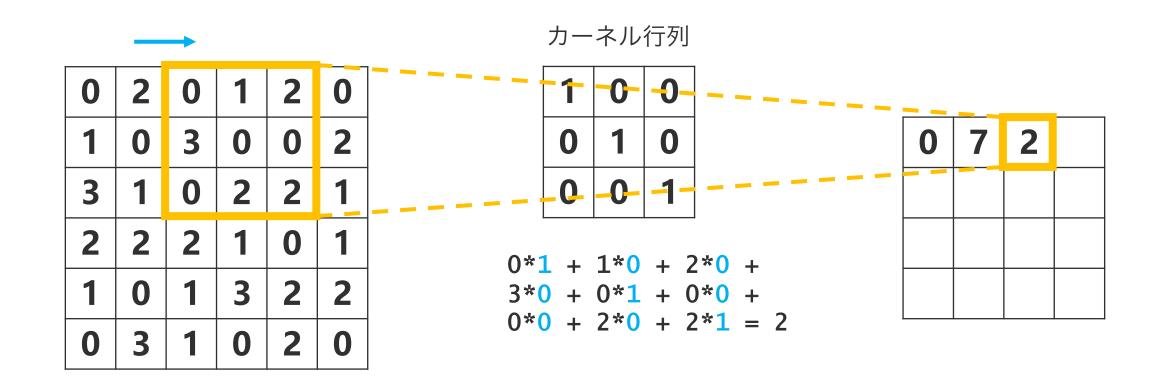
162 149 144 131 124
163 202 123 101 143
132 121 146 150 142
178 178 183 129 126
144 125 135 112 171
241 201 191 122 120
132 152 152 137 121
145 150 171 104 143
152 151 154 114 141
151 149 123 101 153

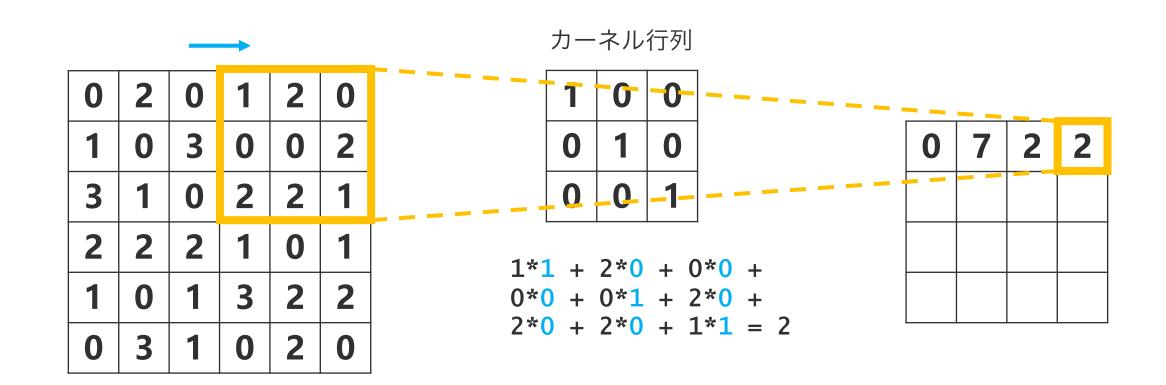
カラー画像

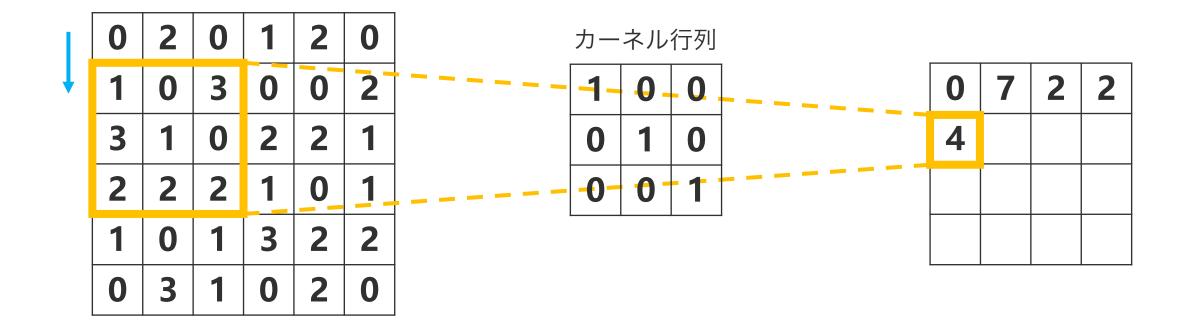


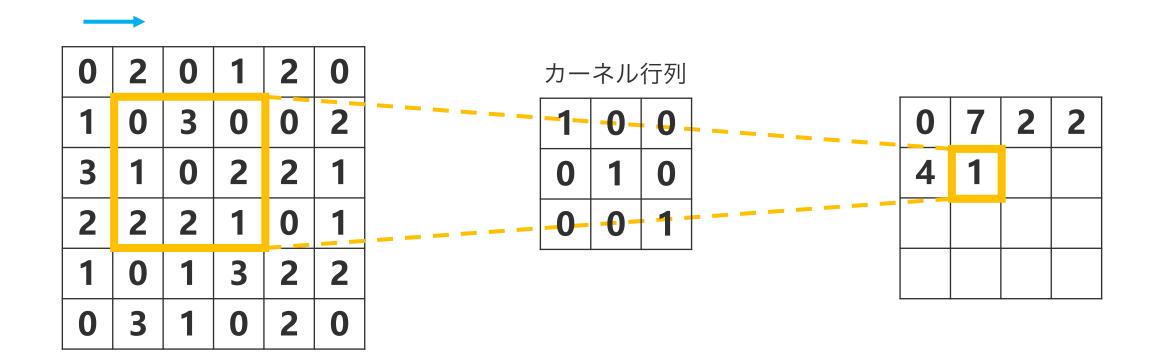


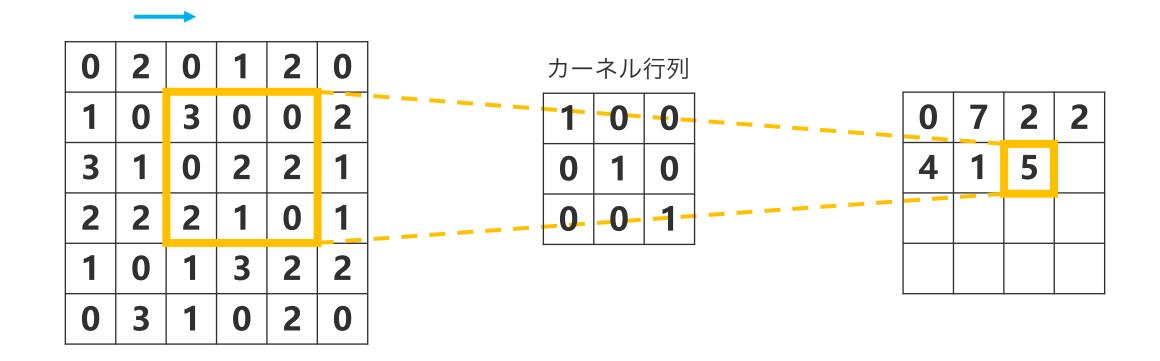


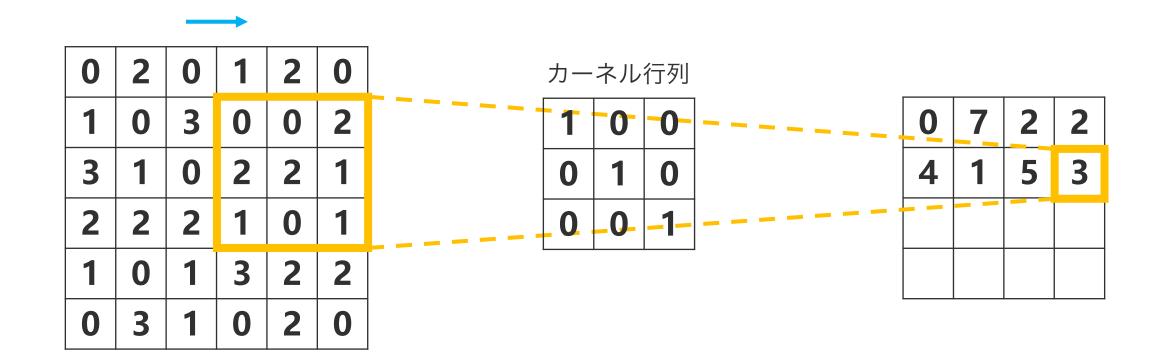


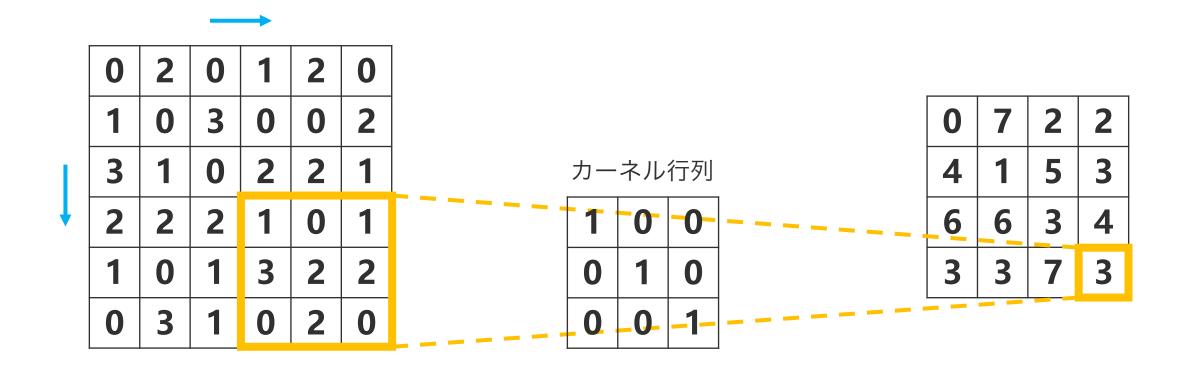












0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	2	0	1	2	0	0
0	1	0	3	0	0	2	0
0	3	1	0	2	2	1	0
0	2	2	2	1	0	1	0
0	1	0	1	3	2	2	0
0	0	3	1	0	2	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0

カーネル行列

1	0	0	
0	1	0	
0	0	1	

0	5	0	1	2	0
2	0	7	2	2	4
5	4	1	5	3	1
2	6	6	3	4	3
4	3	3	7	3	2
0	4	1	1	5	0

モノクロ画像



```
    162
    149
    144
    131
    124

    163
    202
    123
    101
    143

    132
    121
    146
    150
    142

    178
    178
    183
    129
    126

    144
    125
    135
    112
    171

    241
    201
    191
    122
    120

    132
    152
    152
    137
    121

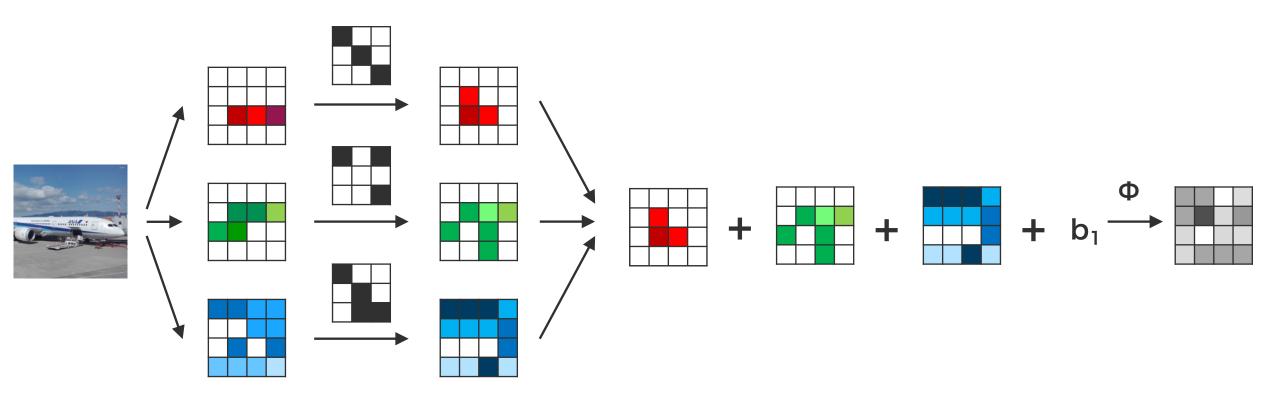
    145
    150
    171
    104
    143

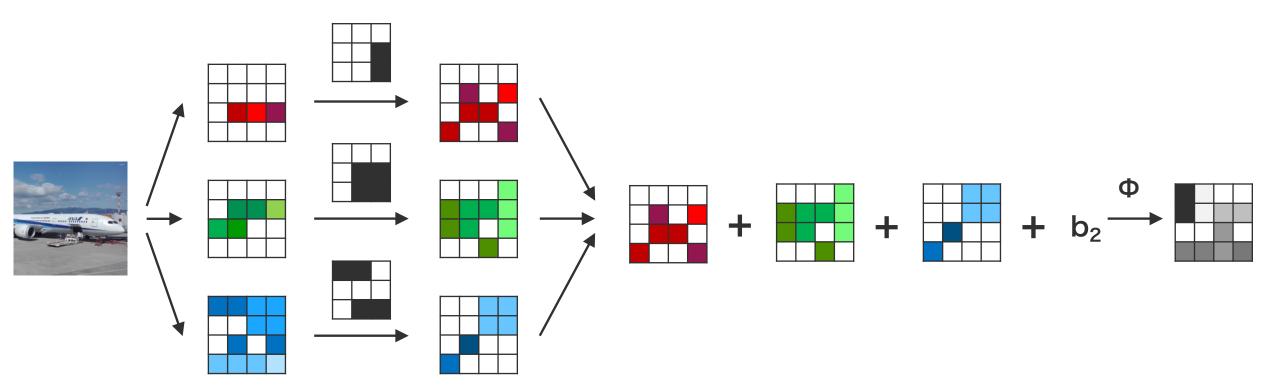
    152
    151
    154
    114
    141

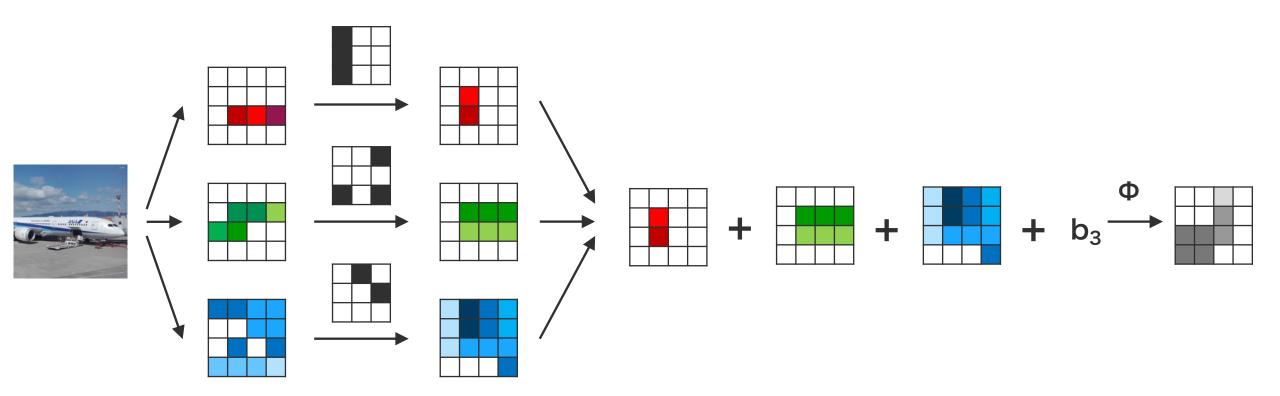
    151
    149
    123
    101
    153
```

カラー画像

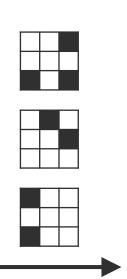








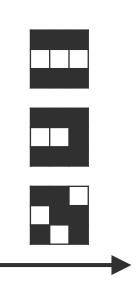




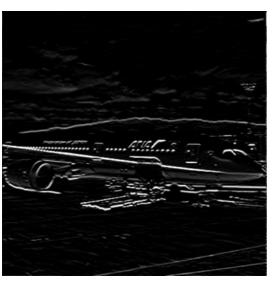


カーネル行列を変えることで、1 枚の画像から様々な特徴を持つ画 像を生成できる。



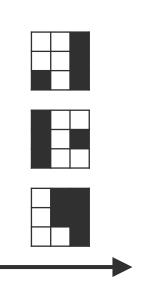




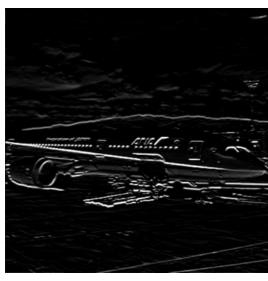


カーネル行列を変えることで、1 枚の画像から様々な特徴を持つ画 像を生成できる。





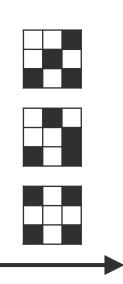






カーネル行列を変えることで、1 枚の画像から様々な特徴を持つ画 像を生成できる。







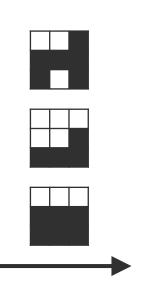




カーネル行列を変えることで、1 枚の画像から様々な特徴を持つ画 像を生成できる。











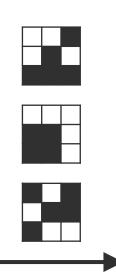


カーネル行列を変えることで、1 枚の画像から様々な特徴を持つ画 像を生成できる。



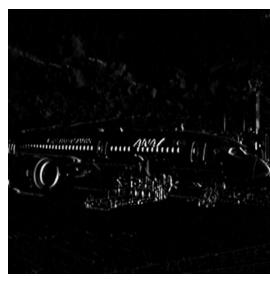


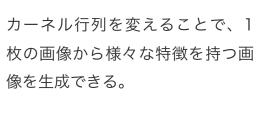














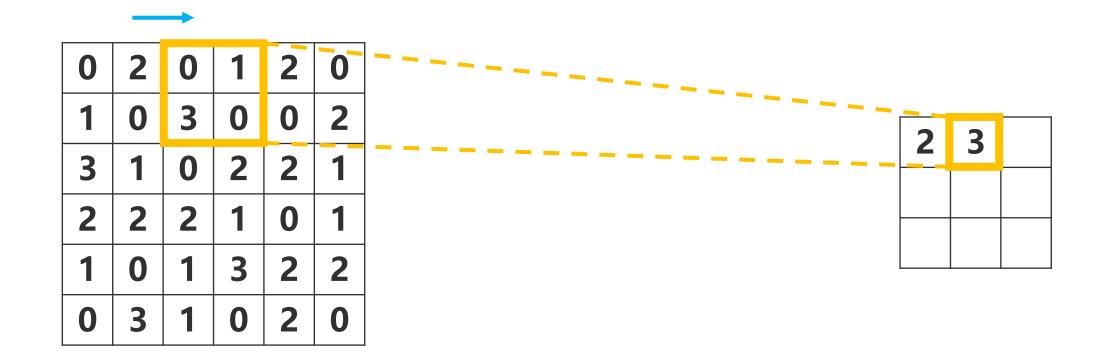




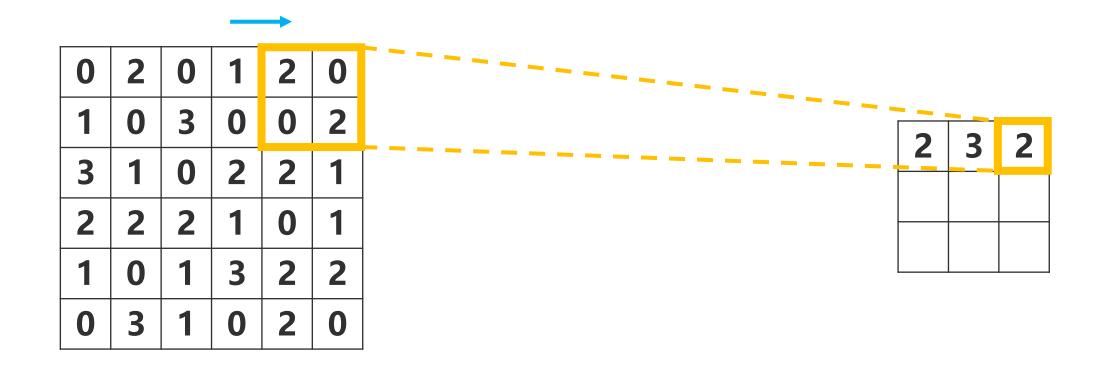
最大値プーリング演算

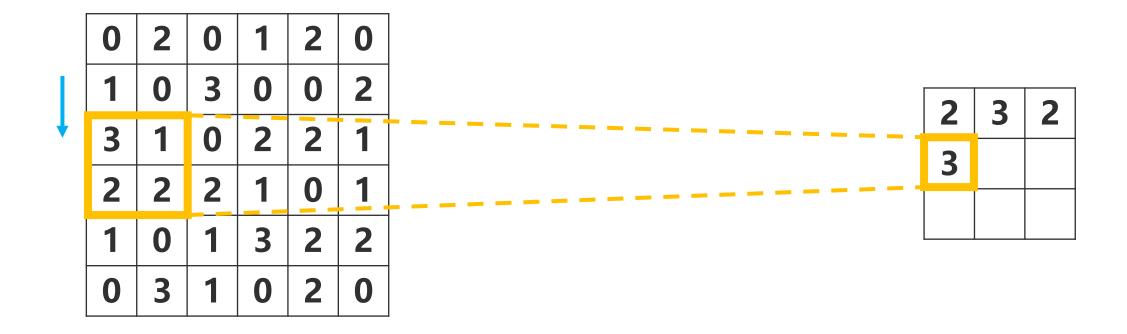


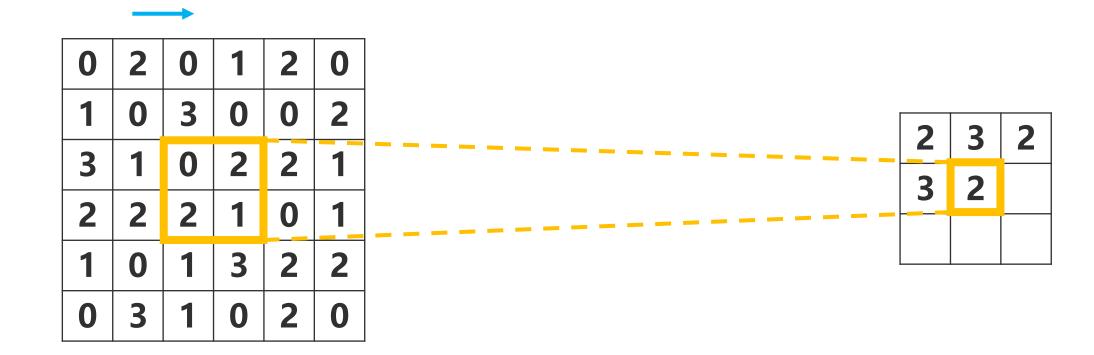
最大値プーリング演算



最大値プーリング演算





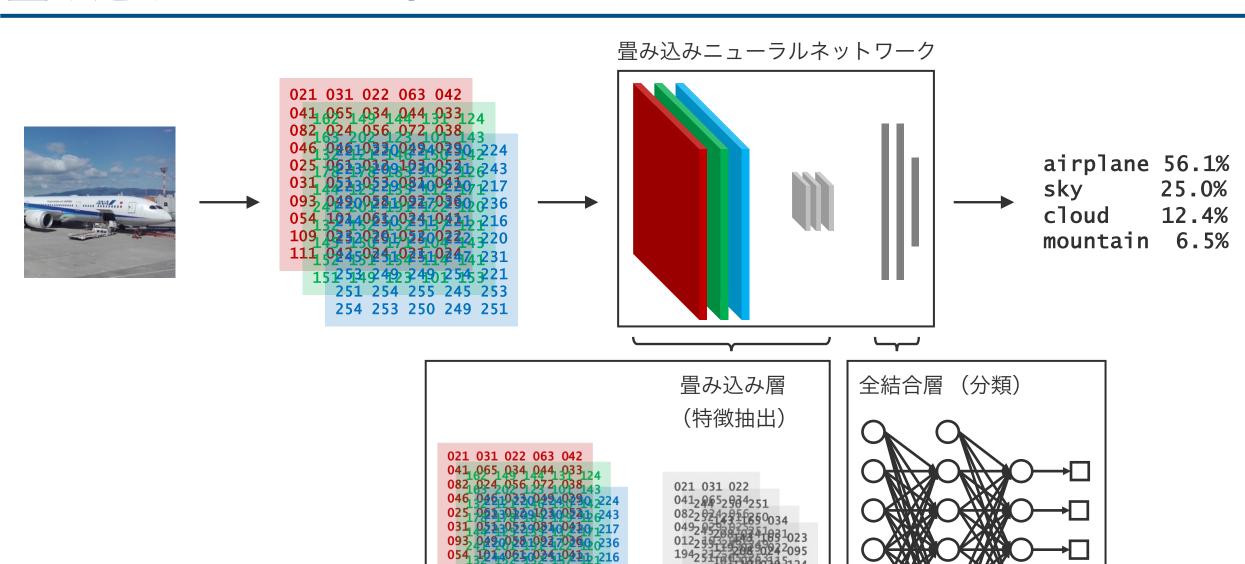


0	2	0	1	2	0
1	0	3	0	0	2
3	1	0	2	2	1
	•				
2	2	2	1	0	1
1	0	1	3	2	2
•		•		_	
0	3	1	0	2	0

0	2	0	1	2	0
1	0	3	0	0	2
3	1	0	2	2	1
2	2	2	1	0	1
1	0	1	3	2	2
0	3	1	0	2	0

2	3	2		
3	2	2		
3	3	2		

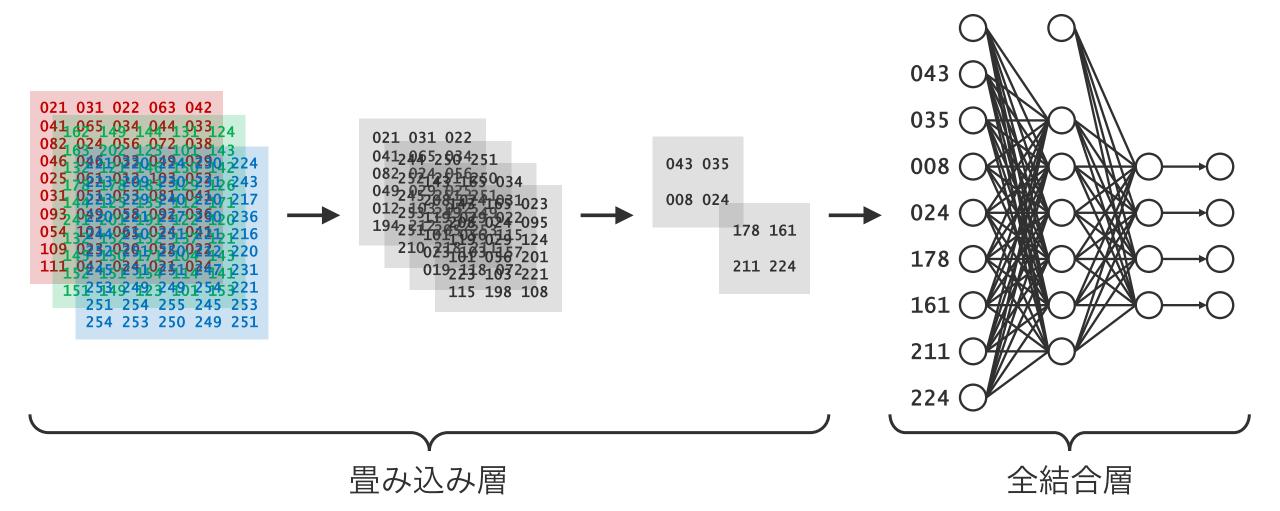
畳み込みニューラルネットワーク



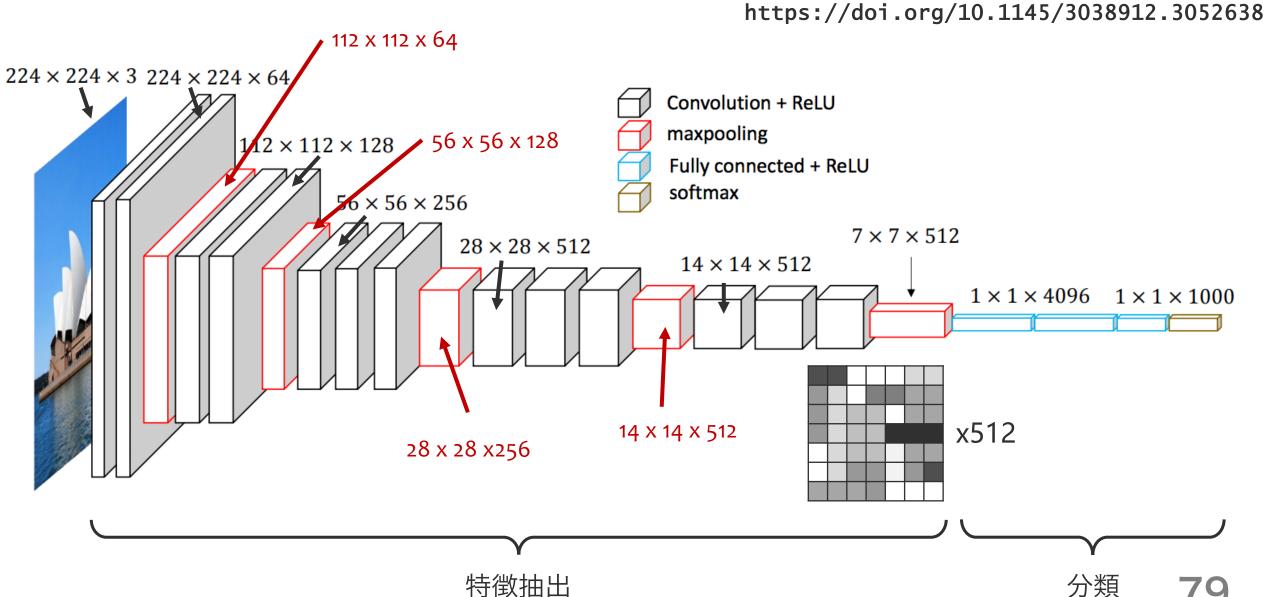
254 253 250 249 251

019₂11118₁03²2₂21 115 198 108

畳み込みニューラルネットワーク



VGG16

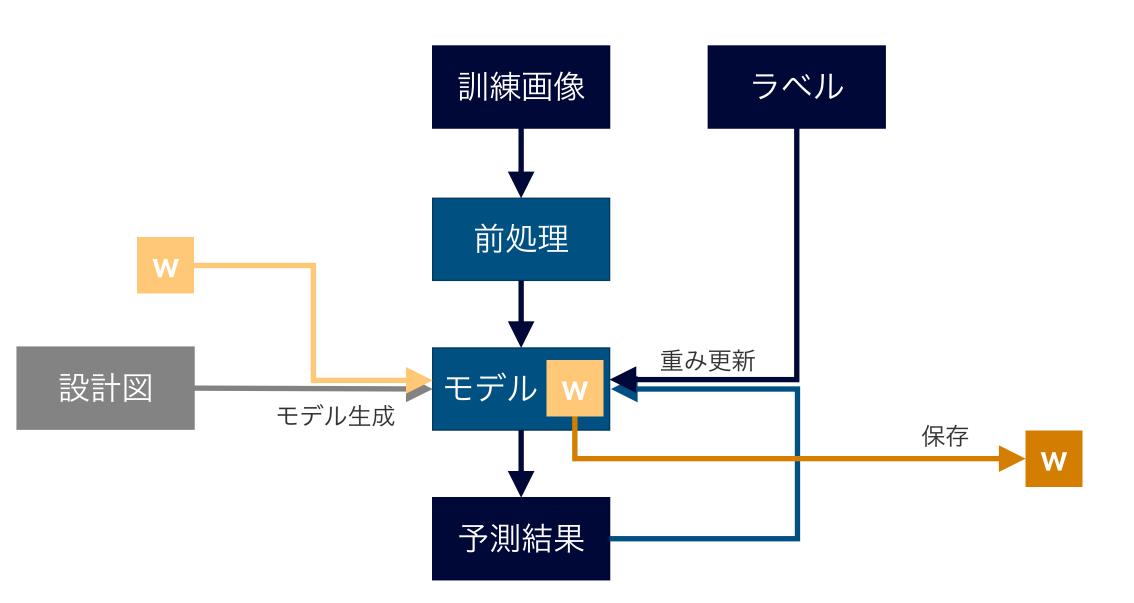


農学生命情報科学特論 I

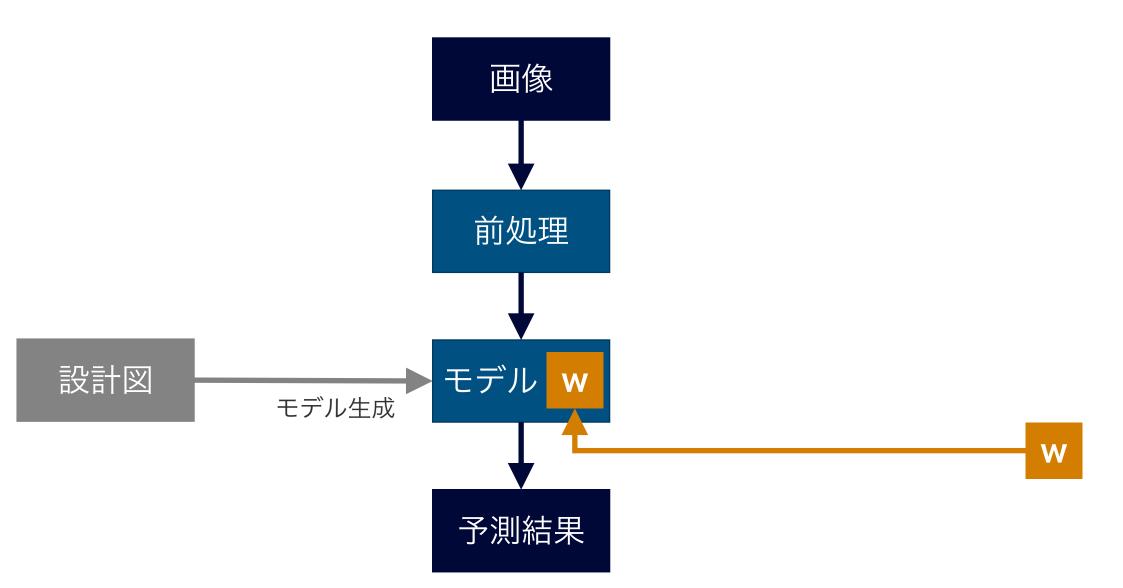


- 機械学習
- 画像解析・物体認識
- () 物体認識モデル実装

訓練プロセス



推論プロセス



class SimpleNet(torch.nn.Module): def __init__(self): supper().__init__() self.nn_inputs = $(((((224-5+1)/2)-5+1)/2)^2)*32$ self.conv1 = torch.nn.Conv2d(3, 16, 5) self.pool1 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)self.conv2 = torch.nn.Conv2d(16, 32, 5)self.pool2 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2) self.fc1 = torch.nn.Linear(self.nn_inputs, 512) self.fc2 = torch.nn.Linear(512, 64) self.fc3 = torch.nn.Linear(64, 5) def forward(self, x): x = torch.nn.functional.relu(self.conv1(x)) x = self.pool1(x)x = torch.nn.functional.relu(self.conv2(x)) x = self.pool2(x) $x = x.view(-1, self.nn_inputs)$ x = torch.nn.functional.relu(self.fc1(x)) x = torch.nn.functional.relu(self.fc2(x)) x = self.fc3(x)return x

class SimpleNet(torch.nn.Module):

```
def __init__(self):
    supper().__init__()
    self.nn_inputs = (((((224-5+1)/2)-5+1)/2)^2)*32

self.conv1 = torch.nn.Conv2d(3, 16, 5)
    self.pool1 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)
    self.conv2 = torch.nn.Conv2d(16, 32, 5)
    self.pool2 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)
    self.fc1 = torch.nn.Linear(self.nn_inputs, 512)
    self.fc2 = torch.nn.Linear(512, 64)
    self.fc3 = torch.nn.Linear(64, 5)
```

モデル構築に必要な部品を準備

```
conv1

pool1 fc1

conv2 fc2

pool2 fc3
```

```
def forward(self, x):
    x = torch.nn.functional.relu(self.conv1(x))
    x = self.pool1(x)
    x = torch.nn.functional.relu(self.conv2(x))
    x = self.pool2(x)
    x = x.view(-1, self.nn_inputs)
    x = torch.nn.functional.relu(self.fc1(x))
    x = torch.nn.functional.relu(self.fc2(x))
    x = self.fc3(x)
    return x
```

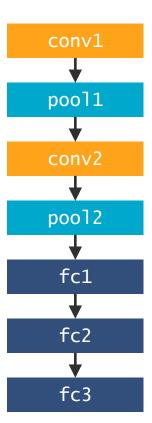
class SimpleNet(torch.nn.Module):

```
def __init__(self):
    supper().__init__()
    self.nn_inputs = (((((224-5+1)/2)-5+1)/2)^2)*32

self.conv1 = torch.nn.Conv2d(3, 16, 5)
    self.pool1 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)
    self.conv2 = torch.nn.Conv2d(16, 32, 5)
    self.pool2 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)
    self.fc1 = torch.nn.Linear(self.nn_inputs, 512)
    self.fc2 = torch.nn.Linear(512, 64)
    self.fc3 = torch.nn.Linear(64, 5)
```

```
def forward(self, x):
    x = torch.nn.functional.relu(self.conv1(x))
    x = self.pool1(x)
    x = torch.nn.functional.relu(self.conv2(x))
    x = self.pool2(x)
    x = x.view(-1, self.nn_inputs)
    x = torch.nn.functional.relu(self.fc1(x))
    x = torch.nn.functional.relu(self.fc2(x))
    x = self.fc3(x)
    return x
```

部品同士を繋ぎデータの流れを定義



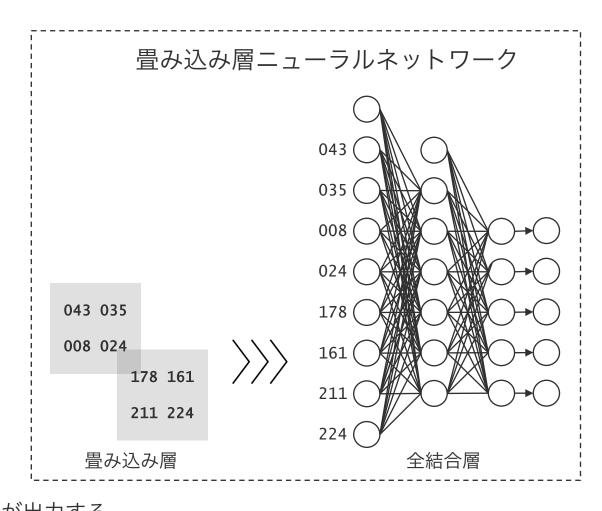
x = self.fc3(x)

return x

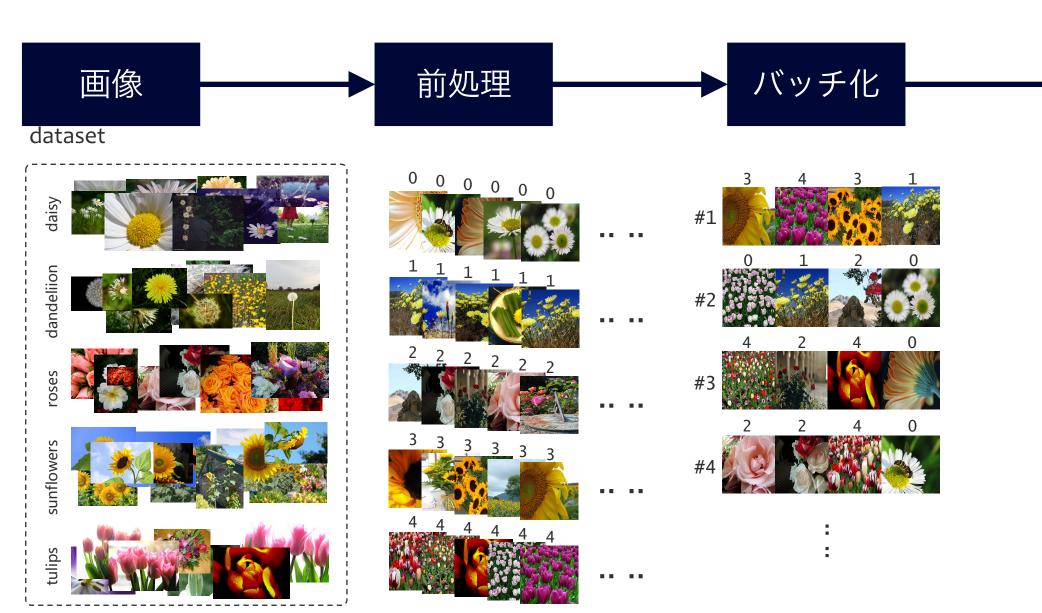
```
class SimpleNet(torch.nn.Module):
```

```
畳み込み層の出力数を計算
def __init__(self):
  supper().__init__()
  self.nn_inputs = (((((224-5+1)/2)-5+1)/2)^2)*32
 self.conv1 = torch.nn.Conv2d(3, 16, 5)
  self.pool1 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)
  self.conv2 = torch.nn.Conv2d(16, 32, 5)
  self.pool2 = torch.nn.MaxPool2d(2, 2)
  self.fc1 = torch.nn.Linear(self.nn_inputs, 512)
  self.fc2 = torch.nn.Linear(512, 64)
  self.fc3 = torch.nn.Linear(64, 5)
def forward(self, x):
 x = torch.nn.functional.relu(self.conv1(x))
 x = self.pool1(x)
 x = torch.nn.functional.relu(self.conv2(x))
 x = self.pool2(x)
                                             畳み込み層が出力する
 x = x.view(-1, self.nn_inputs) 	←
 x = torch.nn.functional.relu(self.fc1(x))
                                             行列をベクトルに変換
```

x = torch.nn.functional.relu(self.fc2(x))



前処理



モデル

前処理

画像

前処理

バッチ化

モデル

- 訓練画像を整理し、画像と教師ラベルの対応 づけを行う、全訓練画像のリストを作成する。
- 画像に対する前処理を定義する。
 - 画像を行列データとして読み取る
 - サイズ変更、色調調整、アフィン変換
 - テンソルに変換
- リストの i 番目の画像がリクエストされたら、 その画像を前処理して返す。



































前処理

画像 前処理 バッチ化

- 訓練画像を整理し、画像と教師ラベルの対応 づけを行う、全訓練画像のリストを作成する。
- 画像に対する前処理を定義する。
 - 画像を行列データとして読み取る
 - サイズ変更、色調調整、アフィン変換
 - テンソルに変換
- リストのi番目の画像がリクエストされたら、 その画像を前処理して返す。

```
X
                                       class Affine:
                                         def __init__(x):
                                           self.x = x
                                         def __call__(x):
                                           x = affine(x)
                                           X
class Dataset:
                                       class Tensor:
  def __init__():
                                         def __init__(x):
    self.x = images
                                           self.x = x
    self.y = labels
                                         def __call__(x):
    self.transform = transforms ←
                                           x = tensor(x)
                                           X
  def __len__():
    retrun len(self.x)
                                       transforms = [
  def ___getitem___(i):
                                         Resize(), ◀
    x = self.transform(self.x[i])
                                         Affine(). ◀
    y = self.y[i]
                                         Tensor(), ◀
    return x, y
```

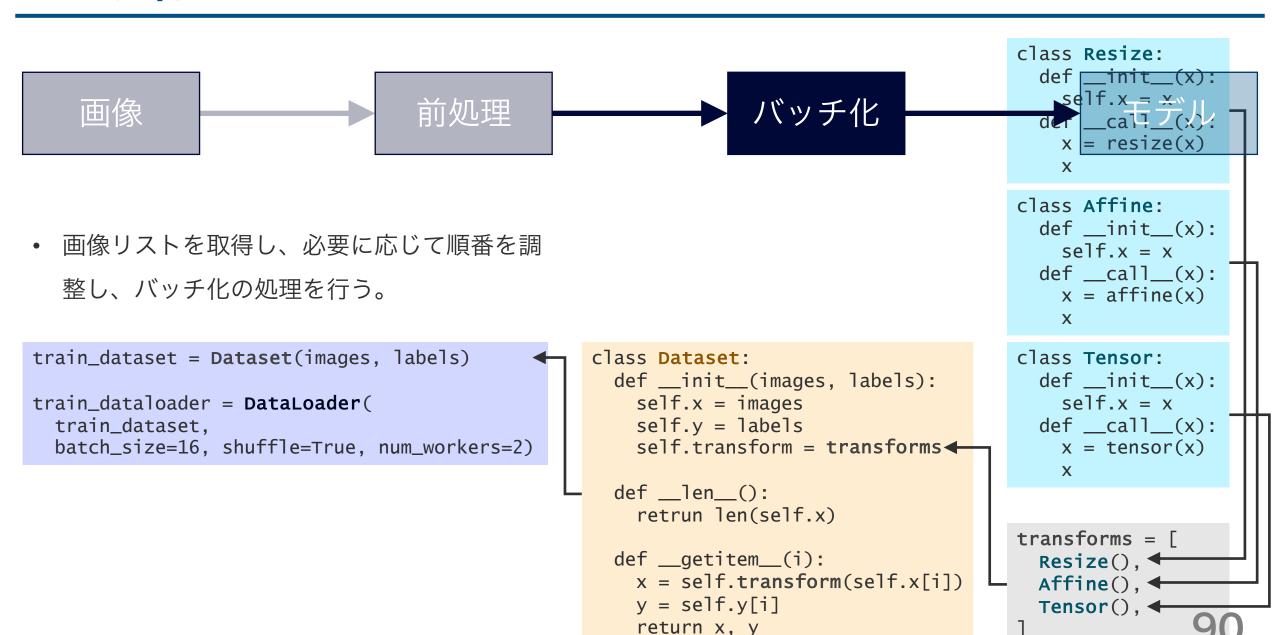
class Resize:

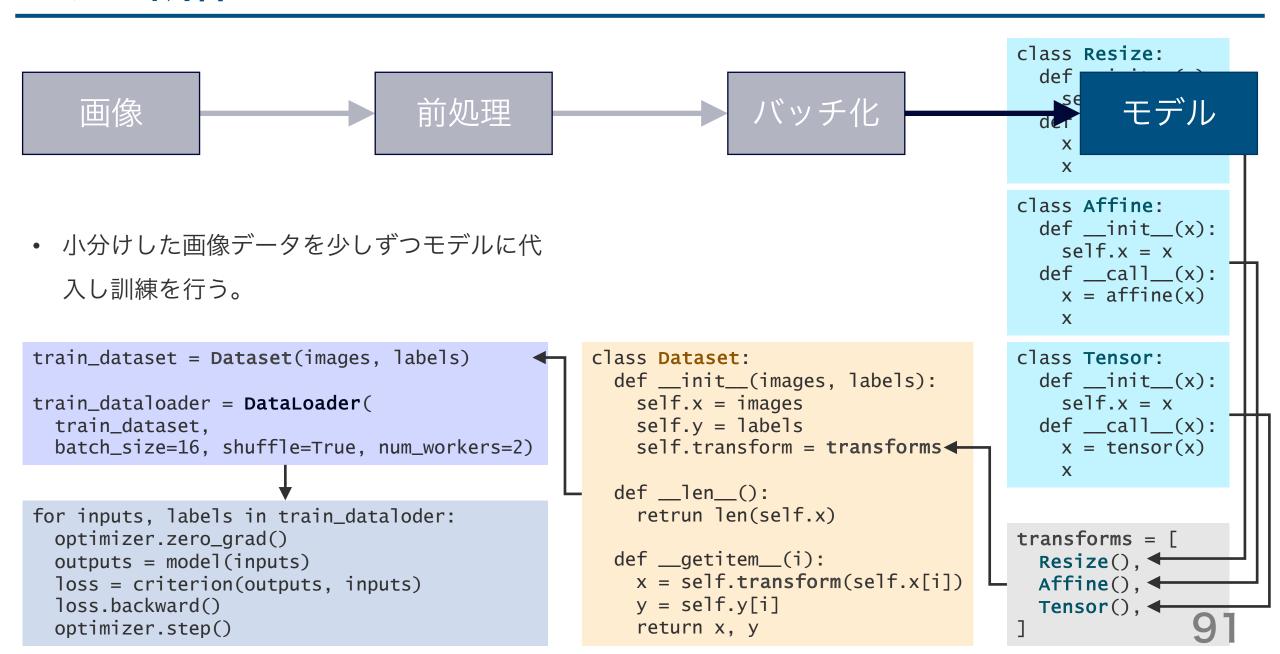
def __init__(x):
 self.x = x

x = resize(x)

 $\underline{}$ ca $\underline{}$ $\underline{}$ $\underline{}$ (x) $\underline{}$

バッチ化





```
# dataset
train_dataset = Dataset(images, labels)
train_dataloader = DataLoader(train_dataset, batch_size=4)
# model
model = SimpleCNN()
model.train()
# parameters
criterion = torch.nn.CrossEntropyLoss()
optimizer = torch.optim.SGD(net.parameters(), 1r=0.001)
n_{epochs} = 50
# training
for epoch in range(n_epochs):
  running_loss = 0.0
  # mini batch
  for inputs, labels in train_dataloader:
    optimizer.zero_grad()
    outputs = model(inputs)
    loss = criterion(outputs, labels)
    loss.backward()
    optimizer.step()
    running_loss += loss.item()
  print('Epoch: {}; Loss: {}'.format(epoch, running_loss))
```

モデルを訓練モードに切り替え、計算時に生じた勾配情 報を保存する。

```
# dataset
train_dataset = Dataset(images, labels)
train_dataloader = DataLoader(train_dataset, batch_size=4)
# model
model = SimpleCNN()
model.train()
# parameters
criterion = torch.nn.CrossEntropyLoss()
optimizer = torch.optim.SGD(net.parameters(), 1r=0.001)
n_{epochs} = 50
# training
for epoch in range(n_epochs):
  running_loss = 0.0
 # mini batch
  for inputs, labels in train_dataloader:
    optimizer.zero_grad()
    outputs = model(inputs)
    loss = criterion(outputs, labels)
    loss.backward()
    optimizer.step()
    running_loss += loss.item()
  print('Epoch: {}; Loss: {}'.format(epoch, running_loss))
```

• 損失関数

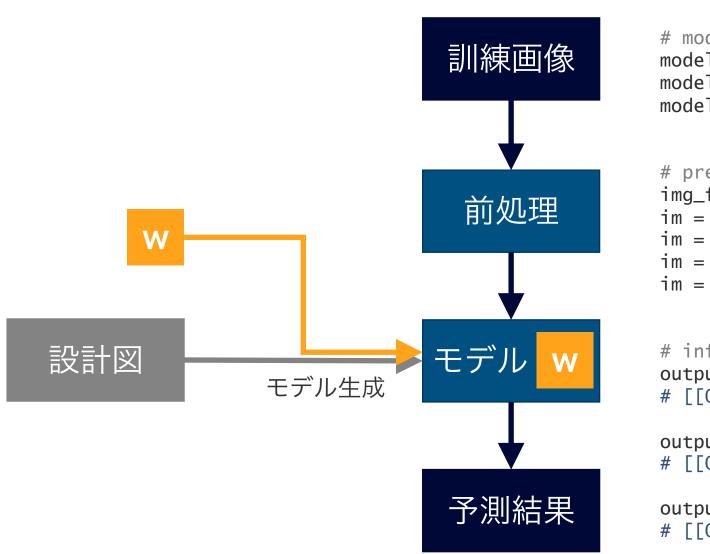
- 多クラス分類問題では一般的にクロスエントロピー関数を 用いる。
- 回帰分析では MSELoss などを使用する。
- 独自で定義した関数を使用することもできる。その際、 outputs と labels を受け取り、1 つの値を返す関数を定 義すればよい。
- 最適化アルゴリズム
 - SGD や Adam などがよく使われる。
- エポック
 - 過学習を起こさない程度のエポックを設定。
 - 検証データを使用して early stopping を組み込む

```
# dataset
train_dataset = Dataset(images, labels)
train_dataloader = DataLoader(train_dataset, batch_size=4)
# model
model = SimpleCNN()
model.train()
# parameters
criterion = torch.nn.CrossEntropyLoss()
optimizer = torch.optim.SGD(net.parameters(), 1r=0.001)
n_{epochs} = 50
# training
for epoch in range(n_epochs):
  running_loss = 0.0
  # mini batch
  for inputs, labels in train_dataloader:
    optimizer.zero_grad()
    outputs = model(inputs)
    loss = criterion(outputs, labels)
    loss.backward()
                                          # 4
    optimizer.step()
    running_loss += loss.item()
```

print('Epoch: {}; Loss: {}'.format(epoch, running_loss))

- 1. 古い損失(勾配情報)を消去する。
- 2. 画像データをモデルに代入し予測する。
- 3. 予測値と教師ラベルから損失(誤差)を計算する。
- 4. 損失をネットワーク全体に逆伝播する。
- 5. 逆伝播された損失を利用してパラメータを更新で

推論



```
# model
model = SimpleCNN()
model.load_state_dict(torch.load('weight.pth'))
model.eval()
# preprocess an image
img_fpath = '/path/to/image.jpg'
im = PIL.Image.open(img_fpath)
im = ImageOps.exif_transpose(im)
im = inference_transform(im)
im = im.unsqueeze(0)
# inference
output = model(input)
# [[0.0935, -5.4933, -1.1156, 6.0684, 0.0409]]
output_softmax = torch.softmax(output, dim=1)
# [[0.0025, 0.0000, 0.0001, 0.9950, 0.0023]]
output_sigmoid = torch.softmax(output)
# [[0.5233, 0.0041, 0.2468, 0.9977, 0.5102]]
```

```
from torch.nn as nn from torchvision import models

model = models.vgg16(pretrained=True)

print(model)

classifier[5] の出力数 4096 を受け取る。

model.classifier[6] = nn.Linear(4096, 5)

the additional content of the conte
```

```
VGG (
  (features): Sequential(
    (0): Conv2d(3, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (3): ReLU(inplace=True)
    (4): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (5): Conv2d(64, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (6): ReLU(inplace=True)
    (7): Conv2d(128, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (8): ReLU(inplace=True)
    (9): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (10): Conv2d(128, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (11): ReLU(inplace=True)
    (12): Conv2d(256, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (13): ReLU(inplace=True)
    (14): Conv2d(256, 256, kernel_size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (15): ReLU(inplace=True)
    (16): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (17): Conv2d(256, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (18): ReLU(inplace=True)
    (19): Conv2d(512, 512, kernel_size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (20): ReLU(inplace=True)
    (21): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (22): ReLU(inplace=True)
    (23): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (24): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (25): ReLU(inplace=True)
    (26): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (27): ReLU(inplace=True)
    (28): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (29): ReLU(inplace=True)
    (30): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
  (avgpool): AdaptiveAvgPool2d(output_size=(7, 7))
  (classifier): Sequential(
    (0): Linear(in_features=25088, out_features=4096, bias=True)
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (3): Linear(in features=4096, out features=4096, bias=True)
    (4): ReLU(inplace=True)
    (5): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (6): Linear(in features=4096, out features=1000, bias=True)
```

```
from torch.nn as nn
from torchvision import models
model = models.resnet18(pretrained=True)
print(model)
                avgpool の出力数 512 を受け取る。
model.fc = nn.Linear(512, 5)
                    出力数を 5 に設定する。
```

```
ResNet(
  (conv1): Conv2d(3, 64, kernel size=(7, 7), stride=(2, 2), padding=(3, 3), bias=False)
  (bn1): BatchNorm2d(64, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
  (relu): ReLU(inplace=True)
  (maxpool): MaxPool2d(kernel size=3, stride=2, padding=1, dilation=1, ceil mode=False)
  (layer1): Sequential(
    (0): BasicBlock(
      (conv1): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1), bias=False)
      (bn1): BatchNorm2d(64, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
      (relu): ReLU(inplace=True)
      (conv2): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1), bias=False)
      (bn2): BatchNorm2d(64, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
    (1): BasicBlock(
      (conv1): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1), bias=False)
      (bn1): BatchNorm2d(64, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
      (relu): ReLU(inplace=True)
      (conv2): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1), bias=False)
      (bn2): BatchNorm2d(64, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
  (layer2): Sequential(
    (0): BasicBlock(
      (conv1): Conv2d(64, 128, kernel size=(3, 3), stride=(2, 2), padding=(1, 1), bias=False)
    (1): BasicBlock(
     (conv1): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1), bias=False)
     (bn1): BatchNorm2d(512, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
      (relu): ReLU(inplace=True)
     (conv2): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1), bias=False)
     (bn2): BatchNorm2d(512, eps=1e-05, momentum=0.1, affine=True, track running stats=True)
  (avgpool): AdaptiveAvgPool2d(output size=(1, 1))
  (fc): Linear(in features=512, out features=1000, bias=True)
```

```
from torch.nn as nn
from torchvision import models
model = models.vgg16(pretrained=True)
model.classifier[6] = nn.Linear(4096, 5)
for param in model.features.parameters():
  param.requires_grad = False
```

```
VGG (
  (features): Sequential(
    (0): Conv2d(3, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (3): ReLU(inplace=True)
    (4): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (5): Conv2d(64, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (6): ReLU(inplace=True)
    (7): Conv2d(128, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (8): ReLU(inplace=True)
    (9): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (10): Conv2d(128, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (11): ReLU(inplace=True)
    (12): Conv2d(256, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (13): ReLU(inplace=True)
    (14): Conv2d(256, 256, kernel_size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (15): ReLU(inplace=True)
    (16): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (17): Conv2d(256, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (18): ReLU(inplace=True)
    (19): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (20): ReLU(inplace=True)
    (21): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (22): ReLU(inplace=True)
    (23): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (24): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (25): ReLU(inplace=True)
    (26): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (27): ReLU(inplace=True)
    (28): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (29): ReLU(inplace=True)
    (30): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
  (avgpool): AdaptiveAvgPool2d(output size=(7, 7))
  (classifier): Sequential(
    (0): Linear(in features=25088, out features=4096, bias=True)
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (3): Linear(in_features=4096, out_features=4096, bias=True)
    (4): ReLU(inplace=True)
    (5): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (6): Linear(in features=4096, out features=1000, bias=True)
```

```
from torch.nn as nn
from torchvision import models

model = models.vgg16(pretrained=True)
model.classifier[6] = nn.Linear(4096, 5)

for param in model.features.parameters():
   param.requires_grad = False

for param in model.avgpool.parameters():
   param.requires_grad = False
```

```
VGG (
  (features): Sequential(
    (0): Conv2d(3, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (3): ReLU(inplace=True)
    (4): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (5): Conv2d(64, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (6): ReLU(inplace=True)
    (7): Conv2d(128, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (8): ReLU(inplace=True)
    (9): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (10): Conv2d(128, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (11): ReLU(inplace=True)
    (12): Conv2d(256, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (13): ReLU(inplace=True)
    (14): Conv2d(256, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (15): ReLU(inplace=True)
    (16): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (17): Conv2d(256, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (18): ReLU(inplace=True)
    (19): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (20): ReLU(inplace=True)
    (21): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (22): ReLU(inplace=True)
    (23): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (24): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (25): ReLU(inplace=True)
    (26): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (27): ReLU(inplace=True)
    (28): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (29): ReLU(inplace=True)
    (30): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
  (avgpool): AdaptiveAvgPool2d(output size=(7, 7))
  (classifier): Sequential(
    (0): Linear(in features=25088, out features=4096, bias=True)
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (3): Linear(in_features=4096, out_features=4096, bias=True)
    (4): ReLU(inplace=True)
    (5): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (6): Linear(in features=4096, out features=1000, bias=True)
```

```
from torch.nn as nn
from torchvision import models

model = models.vgg16(pretrained=True)
model.classifier[6] = nn.Linear(4096, 5)

for i, param in \
    enumerate(model.features.parameters()):
    param.requires_grad = False
    if i > 15:
        break
```

```
VGG (
  (features): Sequential(
    (0): Conv2d(3, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Conv2d(64, 64, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (3): ReLU(inplace=True)
    (4): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (5): Conv2d(64, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (6): ReLU(inplace=True)
    (7): Conv2d(128, 128, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (8): ReLU(inplace=True)
    (9): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (10): Conv2d(128, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (11): ReLU(inplace=True)
    (12): Conv2d(256, 256, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (13): ReLU(inplace=True)
    (14): Conv2d(256, 256, kernel_size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (15): ReLU(inplace=True)
    (16): MaxPool2d(kernel_size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (17): Conv2d(256, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (18): ReLU(inplace=True)
    (19): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (20): ReLU(inplace=True)
    (21): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (22): ReLU(inplace=True)
    (23): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
    (24): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (25): ReLU(inplace=True)
    (26): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (27): ReLU(inplace=True)
    (28): Conv2d(512, 512, kernel size=(3, 3), stride=(1, 1), padding=(1, 1))
    (29): ReLU(inplace=True)
    (30): MaxPool2d(kernel size=2, stride=2, padding=0, dilation=1, ceil mode=False)
  (avgpool): AdaptiveAvgPool2d(output_size=(7, 7))
  (classifier): Sequential(
    (0): Linear(in features=25088, out features=4096, bias=True)
    (1): ReLU(inplace=True)
    (2): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (3): Linear(in_features=4096, out_features=4096, bias=True)
    (4): ReLU(inplace=True)
    (5): Dropout(p=0.5, inplace=False)
    (6): Linear(in features=4096, out features=1000, bias=True)
```

ノートブック

実習 l https://colab.research.google.com/drive/1aLUcbYPVMg8Ga1KJc6IvwqqkGcPD9P0s

実習 2 https://colab.research.google.com/drive/18P9ClHpZm6_47UqYMRyPIdG-dq3y9ZH9



URL にアクセスした直後のデータは孫が所有者となっているため、他の人が編集できない。一度「ファイル」より「ドライブにコピーを保存」をクリックして自分のドライブにコピーしてください。クリック後、コピーされたファイルが自動的に表示されます。表示されない場合は、グーグルドライブを確認して、該当ファイルをクリックしてして開いてください。